

# NOVA だより

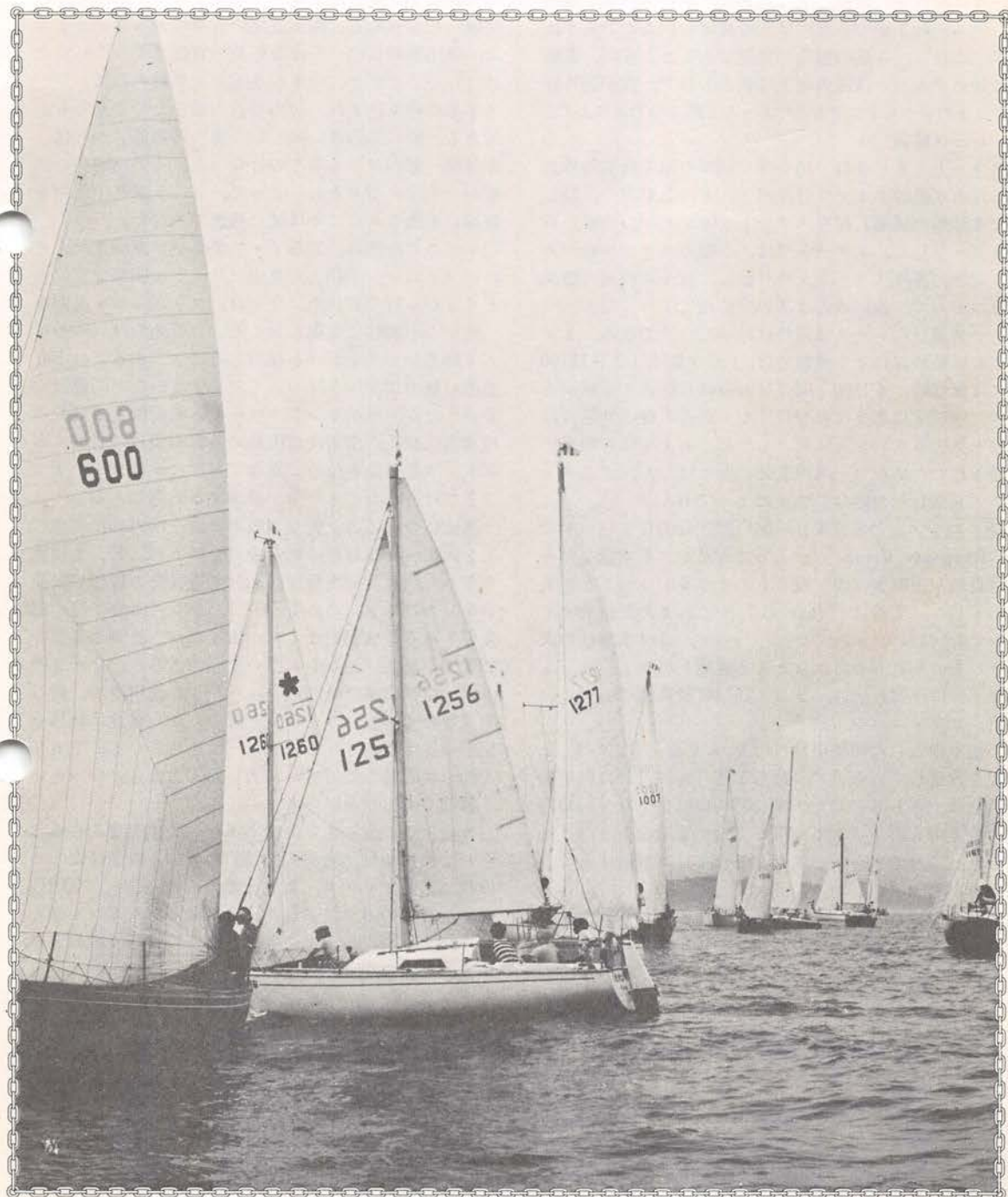
昭和48年 第10号

昭和48年 9月20日発行

発行人  
総務委員会

東京都港区芝罘平町35(船舶振興ビル4階)  
電話・東京 03 (503) 6014-5 〒105

社団法人 日本外洋帆走協会



○鳥羽レース・スタート ○撮影：岡本甫

○会員各位に写真の投稿をお願いします。編集局



## 第14回鳥羽パールレースを回顧して

帆走委員長 榊原伊三

恒例の鳥羽パールレースは、今年で14回を数え、97隻の参加を得るまでに成長いたしました。

微風のパールレースと呼ばれていたこのレースも、昨年に続き誠に結構な風に恵まれ、早いペースで無事レースの終了ができたのは大変喜ばしいことであります。これは、各艇の整備が完璧であるとともに、各艇長始めクルーの技量の向上に依るもので、我が国外洋ヨットのレベルを示すものであったと思うのであります。

### レース経過

**スタート:** 8月3日 10:00 例年の如く鳥羽港外加布良古水道のヨセマル灯浮標と、その北東方に仮設した本部船の見通し線をスタートラインとし、全艇一斉スタートした。スタートでは、5艇のリコール艇があったが、各々スタートをやり直し、折からの東の微風をつかんで、遠州灘のガスの中に消えていった。

**レース運び:** レースは以外に早いピッチで進み、2メガの船舶無線による情報では、トップ集団は3日18:00には御前崎、4日00:00には石室崎を通過する艇があり、唯順風に恵まれただけでなく最近の艇の性能には目を見張るものがあった。しかし、あまりにも順風に恵まれたためかコースの変化にもとほしく、タクテックスを楽しむ余地はなかったようである。

**フィニッシュ:** 8月4日 06<sup>h</sup>13<sup>m</sup>記録的なスピードで、“Rhapsody Vivace”が入ってきたが、不本意ながら乗員数が出艇申告書記載のものより多かったことで失格とした。2着は“Vago II”がこれまた記録のタイムで07<sup>h</sup>03<sup>m</sup>にフィニッシュ、ついで、ほぼ水線長の大きいものから順番に、ほとんど連続してフィニッシュラインになだれ込み、3日 16<sup>h</sup>48<sup>m</sup>最終艇“Stayer III”がフィニッシュ。

出走申告した76隻中D.N.S.が2隻、D.N.F.1隻を確認しているので、残る1隻“白砂 III”に帆走委員会はやきもきしたが、20<sup>h</sup>30<sup>m</sup>同艇艇長より「三崎港に機走で入港、リタイヤする」旨の電話があり、これをもってコミッティーは、4日夜半には解散することができた。

本レースは、レース海面が、東海支部から関東支部へとまたがっていること、あるいはNORCのお祭レースとし、各支部から沢山の艇が参加することなどの

為に、このレースだけの特殊性もあり、帆走委員の皆様には、並々ならぬ苦労をおかけした。

先づ、通常ほとんどヨットのいない、鳥羽の浜辺浦に一時に100隻を超すヨットが集まることについての問題——もちろん、関東支部の方々のおっしゃるように、停泊場所については各艇長の責任でやっていただければいいことだが、今年も地元から無数の苦情がレース本部に持ち込まれ、担当委員の頭をなやませたものである。特に浜辺浦に接した「海の博物館」からは、2日夜一部のヨット乗りの行なった、その構内での無断パーティーなどとあいまって、ヨット乗りの信用を極端に失墜させたことは誠に残念であった。

レースの企画は、本部レース委員会、東海支部、それにフィニッシュ担当の葉山フリートと密接な連絡をとりながら行なわれた。今年は、フィニッシュ海面を三崎から小網代に変更したこと、クラス分けにやむをえず簡易レーティングを採用したこと。あるいは100隻近い艇のスタートについてどうするかなど問題点が多かったが、ベテランレーサーである副帆走委員長の松本富士也氏、柴田俊彦氏始め各帆走委員の皆様、本部レース委員会各位のご指導でどうにかスタートまでこぎつけられたことを深く感謝する次第である。

運営については、先づ多数の計測を精力的に実施し、第2回艇長会議直前に帆走委員会にT.C.F.を提供下さった周東計測委員長始め計測委員会の皆様にお礼を申し上げます。このT.C.F.がレース終了後一部変更される等変則的なことがあったが、計測委員会のご苦勞を思えばやむをえないことであろう。2~3の事例、艇長会議の時間厳守、ルールの適用等で、厳しすぎるのではないかと声を聞いたが、私達は自然を相手の妥協の許されないスポーツをしているのでありこれらは安易な気持ちでレースに臨んではいけないという警鐘であるかと思います。

最後にこのレースの実施にあたって絶大なるご協力をいただいた地元鳥羽の関係者の皆様、海上保安庁の皆様、葉山フリート、東海支部の皆様、そしてNORC本部事務局の方々、フィニッシュ艇をあたたく迎えてくださった、シーボニアフリートの皆様に紙面をお借りしてお礼申し上げます。

(IOR)

### 48年度 第14回鳥羽パールレース成績表

帆走委員長 榊原伊三

クラス順位	セーラーNo.	艇名	石廊崎 MAG O <sup>o</sup>	着順位	フィニッシュ タイム	所要時間	T C F	修正時間 (秒)	総合 順位
I~II ①	1122	VAGO II	00-15	2	07-03-28	21-03-28	・8376	63497	17
2	380	THETIS II	01-56	9	08-23-09	22-23-09	・8199	66075	29
3	667	KAY SEVEN	02-44	21	09-25-22	23-25-22	・8240	69481	40
	1348	RHAPSODY VIVACE	23-30	1	06-13-40	20-13-14	・8630	(D.S.Q.)	...



クラス順位	セールNo.	艇 名	石 廊 崎 MAG O	着順位	フィニッシュ タイム	所要時間	T C F	修正時間 (秒)	総 合 順 位
III	① 640	RENA	01-30	6	07-46-20	21-46-20	・7751	60752	③
	② 1280	FOLLOW THE SUN	00-57	3	07-32-40	21-32-40	・7861	60970	4
	③ 1111	SUN BIRD II	01-03	4	07-42-00	21-42-00	・7864	61434	8
	④ 1100	旭 II	01-35	7	07-49-33	21-49-33	・7845	61641	9
	5 1270	WADATSUMI	01-20	5	07-43-45	21-43-45	・7881	61649	10
	6 1001	SEA FARER III	02-10	17	09-06-02	23-06-02	・7733	64309	20
	7 600	都 鳥	02-30	19	09-13-56	23-13-56	・7832	65504	27
	8 522	寅 丸	02-10	20	09-25-18	23-25-18	・8036	67758	35
	9 523	ARTEMIS	03-30	34	10-35-37	24-35-37	・7865	69634	41
	10 338	MIGRATOR	05-20	74	13-40-18	27-40-18	・7680	76507	45
	358	潮 風 III			(D.N.F.)				
IV	① 1300	TOSHI III	01-50	8	08-16-03	22-16-03	・7546	60491	①
	② 1071	JUNE BRIDE II	01-59	11	08-29-54	22-29-54	・7475	60543	②
	③ 1184	CRAZY BLUE	02-05	10	08-24-18	22-24-18	・7560	60977	5
	④ 1257	PLUMERIA III	01-50	12	08*31-38	22-31-38	・7537	61124	6
	⑤ 1228	RODEM III	02-00	13	08-45-29	22-45-29	・7545	61815	11
	⑥ 1000	月 光 III	02-28	15	08-57-12	22-57-12	・7504	62007	12
	7 1234	DABOHAZE III	02-07	16	09-00-38	23-00-38	・7534	62410	13
	8 1041	MAUPITI	02-45	25	09-41-38	23-41-38	・7433	63402	16
	9 1027	YANKA III	03-00	26	09-54-11	23-54-11	・7421	63858	19
	10 610	飛車角 II	02-45	22	09-26-29	23-26-29	・7629	64380	21
	11 1011	FURNACE	03-00	23	09-38-08	23-38-08	・7615	64795	24
	12 1010	祇 王 II	03-12	33	10-25-58	24-25-58	・7449	65520	28
	13 678	日本武尊	03-22	36	10-54-46	24-54-46	・7467	66969	32
	14 1069	ALBIREO	03-20	40	11-06-55	25-06-55	・7442	67287	33
	15 1088	INDEPENDENCE	03-50	38	11-04-25	25-04-25	・7462	67356	34
	16 613	くろしお II	03-40	44	11-31-52	25-31-52	・7460	68566	36
	17 1189	潮 路	03-35	43	11-23-55	25-23-55	・7523	68787	38
	18 1105	VEGA	04-05	49	11-43-23	25-43-23	・7520	69637	42
	19 1273	ANTARES	05-00	77	13-42-52	27-42-52	・7545	75278	44
	20 1080	HAYATE	07-00	83	14-14-10	28-14-10	・7557	76817	46
	21 1277	STAYER III	09-48	93	16-48-42	30-48-42	・7491	83092	47
	1092	桃 李			(D.N.S.)				
V	① 1200	さら文	02-15	18	09-09-41	23-09-41	・7335	61160	7
	② 1221	龍 飛 II	03-15	28	10-07-18	24-07-18	・7247	62931	14
	③ 1045	CIMA II	03-01	30	10-12-05	24-12-05	・7244	63113	15
	④ 1330	波 勝 III	03-30	31	10-14-35	24-14-35	・7303	63737	18
	5 1128	魁 (さきか) け	03-27	35	10-43-07	24-43-07	・7251	64524	22
	6 1199	NEO PATHOS	03-34	32	10-25-29	24-25-29	・7342	64557	23
	7 1193	隆 容 丸	04-04	37	11-00-59	25-00-59	・7197	64815	25
	8 1160	こぐま II	03-59	39	11-04-29	25-04-29	・7191	64912	26
	9 1245	陽 焔	04-14	47	11-39-54	25-39-54	・7187	66404	30
	10 1133	BARBARIAN II	04-20	45	11-33-42	25-33-42	・7219	66431	31
	11 1285	DORIAN	04-00	60	12-25-22	26-25-22	・7217	68650	37
	12 305	竜 王 丸	04-39	62	12-28-30	26-28-30	・7275	69338	39
	13 1192	HIGH SPIRIT	05-40	68	12-53-02	26-53-02	・7283	70486	43
IV ~ VI	① 1314	TRACER	02-40	29	10-10-54	24-10-54	・6793	59136	①
	② 1377	湊	03-45	41	11-08-05	25-08-05	・6867	62136	②
	③ 1315	CHA CHA	03-45	42	11-21-12	25-21-12	・6840	62430	③
	④ 1328	MAY FLY II	04-20	54	11-57-51	25-57-51	・6770	63280	4
	⑤ 1256	た け し	04-34	56	12-01-49	26-01-49	・6830	64003	5
	⑥ 1337	L'ECUMEUR	04-20	53	11-56-20	25-56-20	・6862	64077	6
	7 1044	雷 電	03-40	50	11-44-22	25-44-22	・6924	64159	7
	8 1266	RUNTHROUGH II	05-30	48	11-41-15	25-41-15	・7041	65112	8
	9 1320	MOON RAKER	05-19	63	12-43-41	26-43-41	・6840	65815	9
	10 1255	MAY STORM	04-45	66	12-47-52	26-47-52	・6899	66556	10
	11 1301	千 勝 II	05-30	70	13-03-30	27-03-30	・6842	66648	11
	12 1368	日 吉 丸	05-05	67	12-49-37	26-49-37	・6936	66986	12
	13 1310	TSURUGI	05-13	64	12-44-10	26-44-10	・6960	66990	13
	14 1037	HOLIDAY	04-50	69	12-54-48	26-54-48	・6968	67512	14
	15 1187	ANONYMA	04-00	75	13-40-56	27-40-56	・6807	67836	15
	16 1214	WILD ZOO	05-34	73	13-38-25	27-38-25	・6829	67952	16
	17 1267	MOJA MOJA	05-50	72	13-38-07	27-38-07	・6887	68517	17
	18 1323	AYA II	05-43	78	13-58-58	27-58-58	・6817	68673	18
	19 1175	ESCARGOT	05-30	76	13-41-14	27-41-14	・6947	69244	19
	20 1212	SOYOKAZE II	06-33	80	14-08-16	28-08-16	・6917	70066	20
	21 1198	笑い鳥一家	06-20	84	14-31-23	28-31-23	・6835	70184	21
	22 1094	侍	05-45	79	14-04-33	28-04-33	・7003	70781	22
	23 1210	ODIN	06-30	85	14-40-07	28-40-07	・6946	71688	23
	24 642	KELONIA II	06-10	86	14-42-00	28-42-00	・7022	72551	24
	25 1023	MON TOUR	06-45	87	15-11-02	29-11-02	・6957	73092	25



## 〔RORC〕

順位	セールNo	艇名	石 廊 崎 MAG O	着順位	フィニッシュ タイム	所要時間	T C F	修正時間 (秒)
①	1186	熊 野 II	02-07	14	08-57-04	22-57-04	・ 760	62794
②	1048	JOKER II	02-50	24	09-38-18	23-38-18	・ 750	63824
③	1007	FLOG III	03-50	46	11-36-06	25-36-06	・ 733	67558
4	1182	白 峰 III	04-00	55	12-01-48	26-01-48	・ 757	70937
5	210	QUERIDA	07-06	88	15-12-47	29-12-47	・ 687	72250
6	1237	TOBA	07-07	89	15-18-40	29-18-40	・ 688	72598
7	1016	GRAMPUS	08-00	92	16-17-00	30-17-00	・ 686	74788
	1226	白 砂 III			(D.N.F.)			

## 〔SIMPLE〕

順位	セールNo	艇名	石 廊 崎 MAG O	着順位	フィニッシュ タイム	所要時間	T C F	修正時間 (秒)
①	1181	BEAGLE II	04-25	52	11-55-46	25-55-46	・ 6913	64530
②	1298	TSIGANE II	04-10	57	12-04-45	26-04-45	・ 6894	64724
③	1378	FUJIKO III	03-15	58	12-21-25	26-21-25	・ 6904	65509
④	1171	SHERAZADE	04-05	51	11-50-09	25-55-46	・ 7143	66436
⑤	1415	BUDDY	04-50	61	12-27-47	26-27-47	・ 7186	68459
⑥	1203	甲 竜 III	04-00	65	12-44-18	26-44-18	・ 7176	69075
7	355	LOTUS	03-00	27	09-58-10	23-58-10	・ 8061	69558
8	1419	STAR OF BETHLEHEM	06-30	82	14-12-17	28-12-17	・ 6856	69614
9	1260	FLEUR BLEUE IV	06-15	71	13-04-16	27-04-16	・ 7217	70334
10	1169	ANCHOLESS	06-00	81	14-11-34	28-11-34	・ 6945	70488
11	1322	翔 雲	06-00	90	15-47-50	29-47-50	・ 6920	74231
12	1404	TERU TERU II	04-20	59	12-23-05	26-23-05	・ 7840	74468
13	1135	AIA	07-40	91	16-15-36	30-15-36	・ 6856	74687
	1373	猪 牙			(D.N.F.)			

## 前夜祭パーティ

国際ホテル会議室での艇長会議も無事終る、夕日が傾いて暮色濃いホテルのプールサイド、恒例のパーティの開催、コミッティを始め揃いのユニホームが目立つ。グループ毎に円形のテーブルを囲み、賑やかな交

歓、遠く鳥羽の花火の打上げが望まれた。でも、大き過ぎるのか、マンネリか、今一つの盛り上がりがない。目玉がないのだ。“鳥羽節”とか“パールレースの歌”、“オーシャンレース踊り”などを開発しよう！



大徳元一家の飲みぶり



VEGAのきれいどころ

## 運輸大臣杯、伏兵“TOSHI III”に

“鳥羽レース”直前の、7月15日のポイントレースにも姿を見せず、全くの初陣で伏兵・忍者の1300“TOSHI III”が、BW-33の先輩で強敵の“CRAZY BLUE”や“RODEM III”をしのいで、アッという間に総合優勝、運輸大臣杯・シイラ杯と栄冠を一人占めしてしまったのは驚きであった。

“TOSHI III”のオーナーは窪山善右衛門先生、インベリアルオフィスを訪問したソコツ記者、のっけから「先生おトシは……」とやったのである。TVクイズの見過ぎ、善右衛門→トシ→“TOSHI”の連想ゲームは完全アウト、記者よりずっとお若い。正解は、副

総理兼大蔵大臣の尊称とのこと、失礼いたしました。

窪山オーナーと、フッドのスペシャリスト、センシブルな戸谷寿男スキッパーからお話を伺う。

「NEの微風で、コミッティボート寄りの上手から順調にスタート、約1時間後SWに振れ各艇スピン競走となりました。神子元まで直線コース93°、風向220°、風速約12.5ktの安定した風で、LEEWAYもなく、平均7.5ktで快調に走りました。我々は、スピン、ビッグボーイ、トールボーイ、メインと4枚張りでのフルパワー、浜名湖沖を1630に通過する時、下手後方から“RENA”が猛烈な勢いで迫って来て抜かれてしまいま





した。1800、御前崎をSW12°に見る位置から、SEの逆流を約2時間受けました。0200の神子元通過は最低潮位時で、危険を考え外側ギリギリを交わして大島よりの直線コース、0300頃からの上げ潮流に乗り、一気にフィニッシュしました。最後まで、“JUNE BRIDE”の追走に、修正でやられたかと思いましたが、レース中スピントラブルもなく、本当にラッキーな勝利でした。」

艇は今春のボートショーにリンホースが出品したBW-33、このサイズが、日本人の体力や経済的なこと、仕事とセーリングの時間など考え合わせて、適正であると決められたようだ。ウィンチはオールバリエント、フッドのシーステア、キャンバーニコルソンのハイドロバックステア・アジャスター、スピード・風向風速計はタンデムのマーシイ、加えて新兵器アンドリュウスのDFコンパスを持つ。これはホーミングコンパスとも言われているが、方向度をセットすれば艇の振れが判るので、コンパスカードのゆれるコンパスは見る必要がなく、夜間帆走には絶対有利・効果的と思う。

## “TRACER”その卓越したスピード

「鳥羽レースに本命なし」、そのジグスにもかかわらず、1314“TRACER”には◎印がついていた。

レース直前、記者とバツクリ顔を合わせた三宅智久スキッパー「強風なら自信があります。それに前号の『NORCだより』に書かれた様に、7月15日のポイントレースで、陳さんの“RYUO”に負けて初めての2位、サッパリしましたからね…。」と爽やかな返事が返って来た。

勝つぞ、勝たねばならぬといった強迫感がとれて、何となく王者の貫録とまではいかないが、それらしい風格を備えて来たから不思議なものだ。それでも心配は心配らしく、8月1日の夜、鳥羽ヨットクラブで丹羽由昌チタ氏と、熱心に潮流やコースの検討をしているのを目撃した。

結果はクラス総合優勝、パール杯とバレーナ杯の両手に花、修正に於ける全艇中断然のスピードに注目あれ。

レース用セールは13枚、オールフッドで重要なものはマープルヘッドの特製、回航のクルージングセールは、鳥羽まで車呼んで降したとのこと、レース用セールの温存に大変な力の入れ方である。補機はヤンマーのYS8に、マグネット入りのNZホールディングペラの組合わせ。

オーナーがお若いので、艇歴も若い、アップスタートではない。前々艇BW-21で始まり、何となく2位になったのが病みつき、前艇“TOSHI II”でSK-31にスイッチしたが、時々アサッテの方向に走ったりで、余り上位進出の話は聞かれなかった。

「回航はオーナーと川上・大堀・佐村のメンバーでしたが、シケられて焼津に入港、この回航は非常に良い訓練になり、また事前調査に役立ったと思います。レース時のヘルムは戸谷スキッパーと加藤祐一郎、そして窪山オーナーと交替しましたが、夜間の走りが勝負の山であると、ライトスピンを大事に大事にいたわりつつ、つぶさぬ様、トラブルのない様に真剣に取り組みました。防大出身のナビゲーター山路明也がいつもビタリと正確な位置を出してくれましたし、相模湾に入っての本船航路では、手旗信号を送って本船に避航して貰うなど、大活躍でした。食事はスナックでゼニの稼げる川上能徳がいてスタミナ充分でした。フォデッキマンの大堀広哲が実に素直に、キビキビと動いてくれましたので大助かり、昼間は良く寝て、夜間は真剣に頑張り、少しづつ他艇を離していったチームワークの勝利と言えるでしょう。快心のレース展開で、フィニッシュ後の充実感・満足感は何とも爽快です。シーボニアの艇上で、川上がスピンを洗いながら泣いていたのが印象的でした。」

これは大変な帆走スピード記録だと思う。単純に計算して、24時間以上、スピード長さ比（水線長の平方根を1.0とする）1.4以上で走りに走った事になるのだ。オーシャンレースで、スピード長さ比1.2~1.3で走った記録は少ないが、1.4以上というのは初耳で、画期的な記録と思う。この1.4という数値で計算すると、世界のあらゆるオーシャンレースの記録は、全部新しく書き替えられてしまうスゴイ艇速なのであり、決してオーバーに言っているのではない。

古くは1851年、英国の万国博に向けて大西洋を渡った102'のスクナー“アメリカ号”が早いとき24時間284マイルを記録している。このチャレンジがもとで現在の“アメリカ杯”レースが生れたのは周知のこと。最近では1969年のトランパックで、73'のケッチ“ウィンドワード パッセイジ”がロス=ハワイ間2225マイルを、ペナルティを除いて9日と9時間24分で走破、同じ年のSORCのマイアミ=ナッソウ間184マイルが、寒



冷前線の大荒れレースとなり、“アメリカン イーグル”のデismastを始め多大のアクシデントを出した時、早い帆走スピードが記録されている。日本では72年の第1回沖繩レースで、40'のスループ“チタ III”が全行程830マイルを108時間32分、平均8 kt弱で走っている。特に4月30日から5月1日の24時間で、224マイルのハイスピードを記録しているが、潮流の影響もあったと思う。帰って来た“チタ III”のデッキは持ち上っていた。

“TRACER”のスピードをスミソニアンあたりに報告すれば、世界の帆走スピード史上の記録として残るのではないかと思う。勿論安定した強風に恵まれたという好条件が、そのスピードをもたらしただが、それでも三宅スキッパーを始め、村田・柳生・根岸・八木らメンバーの卓抜な技術とチームワークには賞賛の拍手を送りたい。彼等も快心のレース運びを終え、フィニッシュしたあと、お互いの頭にビールをかけ合い、

大騒ぎをして喜んだようだ。

レース中、彼等は何を喰っていたのか？彼の会社の研究室にコールを入れる。「智久さーん、お電話よ……。」とスイートなボイス。彼は会社でもジャスト・オン・コースの様だ。

「オールハンズの24時間、実はお茶も沸かしませんでした。フランスパンにマヨネーズをつけ、それにレモンとバナナにキュウリ、コーラにビールで全部です。速いレースでしたので氷が残りましたヨ。」

「レース前日、14艇参加のQトンレースに小手調べに出て、2回ともトップが取れ、フィーリングは最高でした。鳥羽レースでは、スタート直後のNEの微風で大型艇にかぶせられ、逆に闘志を燃やしました。その後のSの拾い方、最初のスピンを上げた時点で決ったのでは……。」

Qトンでは敵なし、来年はオセアン25を卒業して、クラスを上げて来る気配濃厚なり。

## メール・エスプリ杯、的形の“熊野 II”

最遠地の形より回航、RORCクラスで優勝、メール・エスプリ杯を獲得した。1186“熊野 II”の72年度の成績は、27着でクラス4位、総合18位であったから一大躍進である。

オーナー大石高ドクターにお話を伺うと「唯一の目標、関東の艇に如何にしてついて走るか、と一生懸命でした。フィニッシュライン直前で“月光 III”とせり合い8秒差でしのぎ、同型の駿足“ダボハゼ III”にも3分余り走り勝ったので、一同躍り上って喜び、遂にやったアーの感激で一杯です。」

「それというのも、内海で走っていますと、いつも外洋を舞台に活躍している関東勢には、とても歯が立たぬと思い込んでおりましたが……何とかがついていけるのだという自信が湧いたのが、この度のレースを通じての最大の収穫でした。」

大石先生の最大の悩みは、オーナーが50才、スキッパーの大石守ドクター41才、クルーも劣らずの高令で、昨年の紀伊水道レースでファーストホームした時のメンバーの平均が39.5才であったそう。それで今年は、17才のジュニア哲也君と大学生の若手2名を入れてヤング化を計り、回航前の7月22日の日の岬レースで“ビバーチェ”について2着、大いに気を良くして、すべ

て順調に鳥羽回航したとのこと。

レースメンバーは、何も専務の大石高、三半規管故障の大石守スキッパー、牧村聡リブバラスト41才、清水貞利ナビゲーター39才らオールドボーイと、実際に艇を動かしている三木明23才、進藤紀明19才、大石哲也17才のヤングのコンビ。

艇名はオーナーが紀州は熊野の出身のため、岡崎製のコールドモールドハルのパイオニア10、オール国産の機装でセーラーは長尾と川島製、補機はヤンマーYS8の標準装備。

(写真・舵誌提供)



## S M比最高の“BEAGLE II”

SM比とは、SPEED PER MONEY RATIO という記者の新造語、簡単に言えば、ゼニをかけないでよく走ること、“BEAGLE II”はなかなか立派である。

初陣の半自作艇、1181“BEAGLE II”は簡易レーティングの部で優勝の栄冠を手に入れ、苦勞して艇を作りあげたグループメンバーの喜びは大きい。

明朗でハキハキとした好青年、明治長次郎スキッパ



ーは語る。

「鳥羽レース初出場での勝利、夢みたいですがとても嬉しいです。SSCRでは常連ですが、いつも出るとマケ、勝ったのは始めてなので、誰も信用してくれないのです。レース中、ジャイブはただの2回きり、最短距離を走ったのが良かったと思います。これで新しいスピンの買える事になりそうです。」

もともと矢島勝治を始めとするゲルビン7人の自作グループ、熊沢設計のKQ、FRPサンド構造のハル

を買い、上部の木造部は自作したもの、セールは上田製で、ヤマハの船外機を積んでいる。艇名は、ゲーインの『BEAGLE号の冒険』から。

レースメンバーは、明治長次郎29才、関根暉彬34才、矢島勝治24才、風間敦夫35才、長嶺伸幸35才、紫田隆夫24才らの社会派。

レース中に食べた風間コックのそうめんが、とても美味だったとのこと。

## 強豪を押えて快走“JUNE BRIDE II”

油壺の“ジュンブラ”の歴史は古い。その昔、口にするのもつかしい（トアアの21）、その“ジュンブラ”に今はもうトンガに移住した柏村画伯らが乗って、パールレースにのんびり出ている事を覚えているオールドシーマンも少なくないと思う。

公害もなかったGOOD OLD DAYS。優美な艇名なのか、福岡にも仙台に同名艇がいる。

福林紀之スキッパーにお話を伺う。

「昨年の鳥羽レースでは沖に出して失敗、クラス7位、総合21位とサエなかったのです。今年の5月、八丈レースに出て、クラス3位になったあたりから、何となく調子が出てきて自信もつきました。そのあとの大島レースではクラス2位に入りましたから……。」

「今度の鳥羽は、スタートが良かったので、何となく気分と風に乗り、真ん中を走り、前半は“TOSHI III”と一しょでしたが駿河湾で見失いました。レース中は全然寝ないで、肉のかたまりを焼いたり、シチューにしたり実によく喰いよく飲みましたヨ。」

「神子元は内ギリギリで、風早で直線コース、城ヶ島の手前で1回ジャイブ、すんなり入りました。八丈の経験者が3名いて安心しておられましたし、昨年と同

じ風で迷わず走れました。」

何事もなかった様にあっさり言うが、46年の春、現在の艇を回船して来た時は、エンジンの重量でスターンが沈み、絶望的な感じを受けたものだ。それが急に今年になって滑り出したのが何とも不思議、合点がないのだが……。

北大ヨット部OBのグループオーナー、貧乏世帯で今度のレース前も上架はしなかったという。計器もスピードメーターだけ、セールはオール川島にスピンは英国のフッドを持つ。艇は岡崎製のパイオニア10、ヤンマー7.5の補機、けい留地では隣艇のブルーのハル“ダボハゼ II”の美しさの前に見栄えで大分損をしている感じの花嫁。

1071“JUNE BRIDE II”のレースメンバーは、鈴木札三代表オーナー45才、福林紀之スキッパー31才、黒田慎一郎32才、嶋田憲26才、小林浩一32才、柳沢秀一35才、阿部安秀25才に、回航に仙台から出て来た大矢氏や山矢・大沢と多士済々、平均年令の高い社会人の集り、内に静かな闘志を秘め、外柔内剛、強い連帯感で結ばれていて、常に何かが燃えている感じを受けるのだ。

## 姿を見せたテキーラ“湊”

“TRACER”について、クラス総合2位に入った1377“湊”は、フィリップ・アレー設計のQトン、フランスから神湊工業がポートショウ用に輸入した艇、全長7.2m、水線長5.7m、重量1.16トンの軽さ、1昨年の世界選手権で優勝、昨年は3・4位を占めた軽量艇で、NORCのレース参加は始めてである。

松永昌平スキッパーに話を伺うと、

「セーリングディンギーの様な艇で、スパー類はベタソン・ブリアン、バックステー・アジャスターを持ち、オールフランス製の機装、セールはフランスのタスカーです。計器類は未だつけていません。」

「艇はトラックで陸送し、レース前日に水の中に入りましたが、何もかも準備不足で、前日のQトンレー

スにも間に合いませんでした。重量増加を考えて、船外機を降し、替りにアイスボックスを積みました。レース中、スピンシートはクリートしないで手に持って調節していましたが、何分にもチューニング不足で、夜のジャイブが出来ませんでした。でも軽風だったら、艇の性能からみて、優勝は確実だったと思います。」と自信の程を語る。

レースメンバーは、金坂鎮道オーナー32才、松永昌平スキッパー28才、秋谷実26才、甘粕順一24才らセーリングにはチト見識のある面々。

これからのQトン艇では、ディンギーの様に自在に乗りこなす傑出した艇の続出で、楽をしていては上位進出は難しい様である。



## 地元代表で健闘“JOKER II”

6回連続出場、1048“JOKER II”は鳥羽フリートのSK-31、善戦健闘のすえRORCクラスで2位に入賞、地元鳥羽フリート代表の名誉を保った。72年度の成績はクラス1位で総合9位であった。

スキッパー藤井浩ドクターは京都在住で、4～5時間をかけて鳥羽にある艇に通うという熱心な方、なかなかレースに一家言ある戦闘的なタイプにお見受けした。もともと京都府立医大ヨット部のOB連、6年間小型ヨットを共に楽しんだ仲間というフレッシュなドクターのグループオーナー、仕事が忙しくて十分なセーリングの時間がないのが悩みですとのこと、グループの1人は岡山から新幹線で京都まで出て来るので、家を出てから乗艇まで最低6～7時間かかるというから驚きである。ヨット通勤最遠記録だろう。

42年に卒業後、バイトに励んで資金を作り、熊沢設計の24'を三河造船で建造、好きだったサンバの曲“JOKER”より命名、第9回鳥羽レースより出場、台風で全艇DNFとなったが、外洋レースのきびしさを思い知らされた。第10回到クラス4位に初入賞、艇を横

浜で売って帰った。前艇では船外機のトラブルで泣かされたので、ディーゼルを持った加藤製のSK-31を購入、II世となった。バローのウィンチ、BDGの計器、セールは川島で補機はボルボのMD-2。けい留も琵琶湖より鳥羽に移す。

「今度のレースでは、大島沖でスピントラブル2回で破ってしまい、直ちにストームスピンに張替と頑張ったのですが、小網代湾口でコースを取る間に、後続の艇に抜かれたのが残念でした。」もともとやれたのにと口惜しそう。でも1～2年の間に大型艇で、パールレースや沖繩レースにチャレンジする予定とのこと、期待しています。

グループのメンバーは、藤井浩スキッパー兼雑用係とコック30才内科、田原武雄ナビゲーター33才整形外科、橋本英雄エンジニア30才整形外科、勝目紘31才内科、玉舎輝彦31才産婦人科、佐々木隆27才産婦人科、高橋伯夫25才内科という総合病院船、そのうち沖繩レースで、レース中に他艇の盲腸を切ったなどというニュースが聞かれるかも知れません。

## 茶々ではないと言う“CHA CHA”

後藤義国スキッパーは言う。

「スタートの混雑をさせて、上手の島よりが結果的に悪く、スピン展開が他艇より大巾におくれてしまったのが痛い。しかし頑張って夜間には稼ぎ返したつもりです。夜が明けて、すぐ後方にテキーラの“湊”を発見、スクラッチレースとなりましたが、運悪く大島沖でスピントラブルで破り、すぐストームスピンを上げて追いましたが届かず、残念です。」

1315“CHA CHA”はシーボニアフリート、林設計のQトン艇、IOR-MARK III用のホットデザイン、“MOON RAKER”と同型艇だが、こちらはスターンを20cm切り、メンスルのラフを30cm短く、フットを20

cm長くしたそうである。セールは後藤英行が貝道のスペシャリストで、特別誂えとのこと。設計者がヘルムを取った“MOON RAKER”に1時間22分の差をつけたのだから、立派なものだ。スキッパーがいろいろとアイディアを盛り込んだシンプルな機装に船外機、全くの新艇でレースにやっと間に合ったとのこと。

6人のグループオーナーで、うち5人は同じ会社の同じ課、ツ一と言えはカーの仲間、後藤義国スキッパー27才、後藤英行ナビゲーター兼セールマスター25才、伊沢利雄29才、真壁功28才、狩野和夫26才、井上悟26才というキャラクター揃い、“CHA CHA”という艇名には別に意味がないそうである。

## 不振のクラスVで光る“さら文”

レース結果を見ると、何故かクラスVが低調・不振で、タイム的にも今一つ冴えない中で、クラス1位の1200“さら文”の好調が目立つ。71年の鳥羽レースで前艇BW-21の“さら文”が初出場でクラス総合優勝を果し、パール杯・バレーリナ杯を獲得して驚かしたものである。

レース前夜祭のパーティ、国際ホテルのプールサイド、ハルと同色の若草色の染抜き文字の揃いのユニホームを着た“さら文”一家が家族の方ととも円陣を作

り、同じ諸磯フリートの“龍王丸”や“ODIN”の親しい仲間と、賑やかな交歓に楽しい雰囲気盛り上げていたのが印象的であった。

艇はヴァンデ・スタットの31'、岡崎製のコールドモールドハル、使い易いデッキプランとのこと、スピード・風向風速計はタンデム、セールは貝道でフル、補機はヤンマーYS8。

山口正オーナーの言によれば、現在大型艇を設計中、コムフォタブルな居住性と、より高度の帆走性能を追



求めているようだ。

レースメンバーは、高橋勇スキッパー30才、桜井健

次30才、齊藤正樹27才、金杉久25才、上川新21才、秋元徹22才、岡崎洋典24才らレギュラーで占められている。

## 最終美を飾った“STAYER III”

72年度“鳥羽レース”で、前艇の“STAYER II”で善戦、クラス総合優勝でパール杯とバレーナ杯を獲得、本年度は新鋭艇BW-33に乗り替え意気軒昂、先日の“八丈レース”では、“RODEM III”についてクラス総合2位、今度の“鳥羽レース”の下馬評でも確か△印がついていたと思う。

夢よう一度、“陸風我に利あり”と一大スベキュレーション、ネオン街を横目に見ての岸ベタベタ作戦、悩ましい一夜が明けて石廊を廻る頃は、前後左右、四方に艇影なし、思わず「やったァー、ダントッダァー、それッ急げや急げ。」とばかり、後方を気にしながらフルパワー、勇躍ゴールへまっしぐら……。このあたり

が吉田修・梅本龍一・岩村恒樹計測オイソが氏らメンバーのオカシイところ……。

コミッティ、ニコニコと笑いながら「着順93位、貴艇でもってレース終了、御苦様。」と爽やかな宣告、一同ポカンと口を開け、次にガックリと肩を落し、放心状態となった。

後日、航跡図を見ていたM某より「STAYERさんは、国道1号線をお走りになっていたのでは?!」などと皮肉られ、胸はムカムカ、若き血汐は逆流してマストヘッドにのぼったまま、怒り狂い、夜ごと飲み荒れて、NORC会員とみれば咬みつくという、新橋パトロール情報。

## 激闘9時間“QUERIDA”と“TOBA”

8回連続最多出場、210“QUERIDA”は鬼崎フリートのベテラン浅見和也スキッパー以下 小木曾、梶田、有馬、渡辺設計の古いMOSA I型の21'3"、初出場は66年の第7回レースでクラス1位、総合4位に入賞、クラス3位以上4回もあるという。

片や同じRORCクラス、寺本康郎鳥羽F.C.の1237“TOBA”，スプレnger-22、前者のTCFが、687で後者が688、吉崎清・岡田喜代晴・西井靖曠と便乗の記者、昨年は出艇申告のゴタゴタから伴走を余儀なくされ、今年こそはと執念を燃やす。

長い遠州灘の夜が明けて石廊は目の前、“TOBA”は前方にヨタヨタ走る210をとらえ追走また追走、たちまち併走し抜いた。寝ていたと思はれる浅見キャプテン、飛び出しコクピット、腕の冴え見せ抜き返し逆転、石廊0°では先行し、そのまま神子元に当て差を広げる。

行かせてなるものかと“TOBA”，勝手知ったる横根をギリギリのショートカット、爪木にかかる頃はハーフマイルの再逆転、そこで欲出し無用のジャイブ、モタモタする間に“QUERIDA”沖よりスーッと前に出て再々逆転の1/4マイル、コース55°のゴールへまっしぐら、追い波にサーフィングのハルスビードも同じレーティングでは0.1ktの差も出ない。目標ある“TOBA”僅かに有利、ゴールを目前にして“QUERIDA”激しいブローチング繰り返す。それ行け行けと“TOBA”，マストが曲るも構わずスピンも破れよとばかりの追い上げ、しかし期待の風向変わらずコースははずれ沖に出ての併走まで……やんぬるかな……デッドヒートの9時間余り、“QUERIDA”さんは、負けました。好敵手を讃えてのビールの乾杯。寺本先生「バツグンに楽しいレースだった。」とニコリ、出迎いのフラウと固い強い握手に見合わず顔と顔、二人は若い。



「狭い日本そんなに急いで…」ステイヤー



(9) 「故井上理事の遺影を胸に」フルールブルー (舵誌提供)



## 鳥羽レース出場艇紹介

セールNO, 艇名, LOA, 艇種, オーナー  
スキッパー, クルー, コメントの順

- 210 QUERIDA 21'03" オーナー・スキッパー：浅見和也(46才) クルー：小木曾成志(32才), 梶田年雄(27才), 有馬重樹(23才) コメント：①パールレース8回出場。この最多出場記録は更に伸ばすつもり。②上記8回の内, クラス3位以上入賞4回, 総合4位(1966)。  
③東海支部レース年間優勝2回。④今後共レースを楽しみたい。
- 305 竜王丸 30' スループ オーナー：野沢進司 スキッパー：倉持和夫 クルー：林宏計, 押野勝男, 野田勇, 佐藤静治。
- 338 MIGRATOR 39' ケッチ オーナー・スキッパー：R. Berkely クルー：H. Houston, D. Moveland, C. E. Ayers, J. Testrake, H. Yamano, M. Yamada。
- 355 LOTOS 36' ヨール オーナー・スキッパー：金原良一 クルー：石川和夫, 三林耕土, 重田恵子, 歌田道敦, 高村宏, 伊藤哲夫, 福本明達。
- 358 潮風 III 10.95m スループ オーナー・スキッパー：小林義彦 クルー：本田学, 杉本広幸, 茶谷徹, 中野幸二, 大島昇一, 青山真, 加藤精重, 柳原正義。
- 380 THETIS III 13.38m スループ オーナー：山崎利治(30才+α) スキッパー：北沢公康(26才) クルー：山崎利治, 児玉万平(24才), 戸塚芳雄(25才), 小林敏男(27才), 広橋修三(26才), 片山秀夫(23才), 浦野一夫(20才)。
- 522 寅丸 43' ヨール オーナー・スキッパー：谷川晴彦 クルー：谷川寅彦, 金子喜弘, 北川清, 大島富士雄, 尾形耕太郎, 岩崎均, 蕪木仁, 石森敬三, 諸岡英明。コメント：最終の改造を行なった。幸運を招きたい。計測の方々もすべて含めて鳥羽レース運営の方々のご苦勞に敬意を表します。
- 523 ARTEMIS 37'6" ワントナー オーナー・スキッパー：合田督 クルー：井上透(40才), 塚本修(53才), 中庭祐蔵(31才), 上本保(45才), 馬服広志(30才), 竹内賢士(22才) コメント：いつか勝利の女神が微笑むだろうと, 飽きることなく20余年ヨットに乗り続けている。鳥羽レースはお祭りだと割り切ったのんびりやりたい。
- 600 都鳥 11:11m スループ オーナー：岡崎弘 スキッパー：奥敏 クルー：岡崎弘, 渡辺洋二, 野田宗三, 森田春良, 伊藤伸治。
- 610 飛車角 II 35'10" ディープキール オーナー：名和幸夫 スキッパー：周東英卿 クルー：島島信吾, 尾崎功, 市川典章, 宮崎実, 鈴木雄彦 艇名の由来：オーナーが尾崎士郎原作“人生劇場”の人物“飛車角”の心

意気に感じて命名したもの。但し将棋の駒“飛車”と“角”のようにオフショアを縦横無尽に走り回りたいという夢もチョッピリ入っている。メンバーのカラー：“飛車角I”誕生(1964)以来“女は乗せない(家族を除く)飛車角”として, 艇名の由来に相応しく海の男の心意気で固く結ばれてきたグループ。海が時化てくると艇内が活気づき, クルーのファイティングスピリットが自然と高揚するのが特徴。来年は飛車角グループ誕生10周年に当るので盛大なパーティーを開催すべく現在オーナーを中心に計画を練っている。(これを機会に“美女と飛車角”にイメージチェンジをすべきとのクルーからの声あり) レースの抱負：別名“嵐の飛車角”の異名に相応しいレースコンディションにでもなれば, 一暴れしてダークホースに!!

- 613 くろしお II 33' スループ オーナー：大浜博利 スキッパー：大山欣昭 クルー：小林啓司, 藤岡治隆, 長江博人, 松岡博昭, 石川睦, 太枝良夫。
- 640 RENA 11.14m スループ オーナー：滝進太郎 スキッパー：羽柴宏昭 クルー：滝進太郎, 羽柴宏次, 仁藤勝郎, 北島厚之, 藤井孝, 田中義人。
- 642 KELOMA II 24.5' BW-24 オーナー：大谷正彦 レース：鈴木知二(艇長 35才), 渡辺竜彦(NORC 通信委員 28才), 登坂一郎(28才), 横沢正則(NORC 通信委員 27才) 回航：矢島和夫(艇長 31才), 白井康雄(25才), 田村実(Y15元全日本チャンピオン 31才) コメント：BW-24の最古艇。一時ははなやかな時代もあったが, 最近劣多けれど勝つこと少なく, 長丁場のレースに一山はり, 最新艇に一あわふかせるつもり。
- 667 KAY SEVEN 13.5m スループ オーナー：栗林友定 スキッパー：福田義一 クルー：小田達雄, 下平紘一, 宮沢秀治, 永田正人, 村瀬和彦, 湯浅誠治, 辰巳豊, 占部祐二。
- 678 日本武尊 31' SK-31 オーナー・スキッパー：山口徳行(28才) クルー：北島俊次(29才), 菊田稔(28才), 松島ワタル(26才), 桐生政郎(25才), 岡本鉄男(20才), 石徳俊司(19才) コメント：平均年令25才と若く血潮が胸に湧くが, 山口, 岡本以外は鳥羽レース経験が初めて故, 慎重にやりたい。
- 1000 GEKKO III 31' SK-31 オーナー・スキッパー：清水栄太郎 クルー：尾崎博(早大OB ルールにうるさい), 石川光男(早大OB 稲竜で日本一周。無口 会計士), 並木茂士(早大OB ゴルフシングル スナイプ出身), 宮沢忍(明大OB 若手No1 クルー, 艇長までおどかされる), 岩本隆男(明大OB 目下司法試験受験中, 近々先生になる予定), 加藤容正(上智OB レース前に二世誕生, 安心して出場) コメント：一昨年はエンジントラブルで断念, 昨年はスタート後石川君がモーターボートで追いかけて来て乗艇のためリタイア。今年こそと思っている。レース前, 的矢渡鹿野に寄港, 非常によかった。来年もと思っている。
- 1001 SEAFARER III 9.15m スループ オーナー：高橋靖裕 スキッパー：武藤勝久 クルー：大島五郎,



佐藤庄一、鈴木直人、平野真司、峯岸正、岡田睦の面々。

1007 FROG III 9.0m スループ オーナー・スキッパー：真田恒男

クルー：西村知明、清水泰治、寺尾忠紘、鳥居冒治、徳永敏、増見博一。

1011 FURNACE 32' スループ オーナー・スキッパー：笹岡耕平 クルー：若林成一(28才)、小堀明雄(20才)山本嘉敏(36才)、柳田義博(32才) コメント：メンバーは大阪市立大学ヨット部OBで組織するそよかぜ会の有志。艇は旧名メルジーネ、大阪に移籍以後殆んどレースには参加せず、クルージング専用だったが、一念発起頑張る。レース経験が浅いのでとにかくくっついて帆走するつもり。昨年は小笠原、沖繩等にクルージングして潮っ気は豊富。メルジーネ時代の名声をけがさないよう頑張るつもり。

1010 祇王 II 33' スループ オーナー：山田金作 スキッパー：綿貫春夫 クルー：山田文治、岡崎正憲、中村建一、山田茂雄 コメント：追風に弱い船をどこまで走らせられるかが問題。同コースは小豆島二往復半を経験しているので比較的よく知っている。当レースは初参加だがヤングパワーで頑張る。

1016 GRAMPUS 6.5m スループ オーナー・スキッパー：井藤猛 クルー：畔柳甲、中川幹夫、南谷泰夫

1023 MON TOUR 7.49m スループ オーナー：橋本孝禧 スキッパー：渡部正雄 クルー：杉谷克彦、荻野富夫、高野純、野沢清治。

1027 UAÑKA III 9.5m SK-31 オーナー：石塚辰雄 スキッパー：林岳彦 クルー：賀治道隆、市村俊明、市村昌明、宮川菊江、佐々木康夫、寺山茂。

1037 HOLIDAY 7.5m BW-24 オーナー・スキッパー：根本紀一 クルー：荒井勉、野上祐一、小林義孝、高岡正己 コメント：この艇で最後の鳥羽レース。次はハーフトンを計画。最近艇も古くなり、NORCレースでも成績がふるわずガッカリしている。最近のレース艇の変転のめまぐるしさにはなかなかついていけないので、今回は戦時中の竹槍作戦でいくつもりである。

1040 MAUPITI 9.39m スループ オーナー・スキッパー：岩田禎夫 クルー：林建、秋岡康夫、斎藤学、中村幸広、宮信行。

1044 雷電 7.4m スループ オーナー：渡辺卓保 スキッパー：柏木文勝 クルー：窪田良三、菊地章、富永一夫、落合孝夫。

1045 シマ II 28' スループ オーナー・スキッパー：長谷川喜一郎 クルー：長谷川哲三郎、中西康彦、村田保、玉井洋、瀬川清登。

1048 JOKER II 31' SK-31 オーナー・スキッパー：藤井浩(30才) クルー：田原武雄(33才)、橋本英雄(30才)、玉舎輝彦(32才)、勝目紘(31才)、佐々木隆(28才)、高橋伯夫(26才)。

1069 ALBIREO 9.449m SK-31 オーナー：清水貞

男 スキッパー：山中康民(36才) クルー：貞松猛郎(28才)、片本正博(26才)、池田元一(29才)、港屋幸治(34才)、中川光子(28才)、西川勝正(22才)、岡本貞也(28才) コメント：気心の知れたクルーばかりなのでチームワークをポイントに、グループのモットーである Think, Smile, Challenge を忘れず、出る以上は勝負を賭けたい。

1071 JUNE BRIDE II 9.7m スループ オーナー・スキッパー：鈴木礼三 クルー：福林紀之、黒田慎一郎、嶋田憲一、小林浩一、柳沢秀一、阿部安秀。

1080 HAYATE 10.2m スループ オーナー・スキッパー：石川平八郎 クルー：高橋守、菅井英夫、久保誠、高畑匡秀。

1088 INDEPENDENCE 32'6" スループ オーナー・スキッパー：平松栄一 クルー：大坪孝(上智大ヨット部 23才)、金子隆司(慶大ヨット部 20才)、島本洋一(青学大ヨット部OB 23才)、岡本良治(慶大ヨット部 19才)、大村秀明(明大ヨット部OB 23才)、浜田全紀(早大ヨット部OB 23才) コメント：大正末期から昭和の初年にかけて葉山を中心に湘南の海で活躍した慶大のインデペンデンス号の名をそのまま襲名。作った所も同じ岡本造船所で、「手作りの味」を充分かみしめられる木造艇。但し設計から竣工まで2年半もかかってしまったので、でき上る頃に新たに生まれた3/4トンのレーティングに一周り小さい事が分って悔んだが追いつかない。メンバーは一見インカレ上りの各大学選手の寄せ集めみたいだが、昨秋来、冬の間も一緒に練習し、この春からのレースにも出ているので決して単なる一時的な寄せ集めではない。今レースでは浜名湖沖あたりでスピナーハリが切れ、また大島元町沖でスピナーホルのピンが抜け、トラブルをおこしレース成績は散々だったが、これは勿論オーナー・スキッパーの責任である。クルーは皆若いので今後苛酷な練習にも耐え得る熱意を持っており、これからが楽しみである。

1092 桃季 31' スループ オーナー：三林耕士 スキッパー：丸岡洋 クルー：嬉野通晴、林政義、平木仁、後藤博史、田中稔、高橋公憲、林繁、坪上充。(D.N.S.)

1094 侍 7.4m スループ オーナー：前川勝 スキッパー：星欣延 クルー：古沢清、武田次夫、前川勝、桑原。

1100 旭 II 36'5 1/4" スループ オーナー：小杉行雄 スキッパー：高橋昌彦 クルー：小野寺文雄、五十嵐研自、佐藤裕、五十嵐博之、神尾恵三、吉川誠一。

1105 VEGA 31' スループ オーナー：古川保夫 スキッパー：高田耿彦 クルー：古川保夫、塚本次郎、山本仁、市川研二、浜村進、中村純子。

1111 SUN BIRD II 11.8m スループ オーナー：山崎達光 スキッパー：石合幸彦、クルー：雨宮俊夫、依田誉、広谷忠彦、飯泉庸一、鷲尾猛、内田敬治、木村洋一。

1122 VAGO II 12.8m スループ オーナー：武田陽信 スキッパー：大儀見薫 クルー：David Megormick,



小林克美, 橋本龍夫, 佐々木芳明, 高山繁, 藤谷佑三, 高城正義, 松本さと子。

1128 魁(SAKIGAKE) 8.3m Y-28 オーナー・スキッパー: 入目一夫 クルー: 野口泰宏(31才), 阿部将一(31才), 中川辰也(32才), 笹木憲司(28才) コメント: 魁定食は自慢の一つ(料理の上手なものが多い。かといえは皿洗い専門の者もいる。)進水して2年弱であるが, NORC主催のレースには初参加。右も左もわからないのでよろしく。上記メンバーは皆いいお年だが半分は独身。彼女(ヨット)にもてすぎるためか, 本当の彼女(人間)にもてないためか, 当人達はわかりません。

1133 BARBARIAN III 9m スループ オーナー: 田中彰 スキッパー: 立石康行 クルー: 増井宗男, 内田公夫, 石井力, 井上一夫。

1135 AIA 6.5m スループ オーナー: 福田英秋 スキッパー: 福田魁三郎 クルー: 後藤敏宏, 大塚豊, 福田英秋, 溝渕雄三。

1160 こぐま II 8.837m ハーフトナー オーナー: 熊沢時寛 スキッパー: 三村通雄 クルー: 星野信之(26才), 増山豊(26才), 八木久和(24才), 岡田誠一郎(24才), 横山孝(25才), 安主勇(25才)。

1169 ANCHORESS 7.4m SP-24 オーナー: 広瀬翁(26才) スキッパー: 戸田洋(28才) クルー: 伊神謙三(27才), 出口伸雄(27才), 藤田隆(25才), 森岡稔夫(25才) コメント: 大学ヨット部OBのクルーザー馬鹿の集団。町田氏, 森岡氏以外全員独身。飲んで騒いで昔話と河内音頭。いつ会ってもこれの繰り返し。新しい話題を作るためにパールレースに出場。このレースでドジをふむと一生涯のタネになるので, 全員必死で頑張るつもり。

1171 SHERAZADE 9m FB-III スループ オーナー・スキッパー: 東尚吾 クルー: 永信修治, 前川葵, 安福俊一, 山本誠, 永信徹。

1175 ESCARGOT 7.95m スループ オーナー: 宮崎正巳 スキッパー: 伊東政信 クルー: 宮崎正巳, 芝藤敏彦, 白鳥誠, 今関敏邦, 小野誠英。

1181 BEAGLE II 7.5m KQ オーナー: 矢島勝治(代表) スキッパー: 明治長次郎(30代に片手が届いている人) クルー: 関根暉彬(BEAGLE Iの代表オーナー) 矢島勝治, 柴田隆志, 風間敦夫, 長嶺伸幸, 安土・横山(今回は他艇)。コメント: レースは鳥羽までいけたら帰らなければならないので, 帰るなら早く帰りたい。そして荒されていないうちにビールその他を頂きたい。

1182 白峰 III 10m バイオニア オーナー: 三田善美 馬場匡 スキッパー: 山根利勝 クルー: 青柳省吾, 本光男, 加藤博和, 森下義之 コメント: カマ(エンジン)の力は参加艇中トップクラスで, 機走で7.5~8.0ktは出せる。今回は四国初のエントリーであり, まず第一に完走をめざし, できれば他の $\frac{3}{4}$ トナーとの走りを較べてみたい。今回のレースメンバーは高松の大的場ヨットクラブの会員有志からなり, 白峰IIIのレギュラーメンバー・

馬場・山根・青柳の三名に, デンドロのオーナー森下, あおみねのクルー加藤, OKディンギーの本, 総員6名, チームワークには自信あり。

1184 CRAZY BLUE 10m スループ オーナー: 武村洋一 スキッパー: 金指昭郎 クルー: 貝道盛孝, 石田幸博, 小谷外茂雄, 大野和彦, 岡室保子。

1186 熊野 II 9.7m スループ オーナー: 大石高 スキッパー: 大石守 クルー: 大石高, 大石哲也, 進藤紀明, 杖村聡, 山内孝夫, 三木明。

1187 ANONYMA 21' BW-21 オーナー・スキッパー: 池田祐之 クルー: 丁栄一, 高安俊介, 久本寛 コメント: クルーザー 100隻のスタートの光景を想像して楽しみにしている。

1189 潮路 31' SK-31 オーナー: 池田祐之 スキッパー: 相田栄一 クルー: 渡辺平太郎, 春野明, 高部貞二, 楠富夫, 大田義和, 楠本真国 コメント: 長距離レースの好きな連中の集まり。金をかけずによく走ることがこの艇のテーマ。風への注文——クロズドリーチの軽風又は風向を問わず 20m/sec 位の小シケ。

1192 HIGH SPIRIT 9.07m オーナー・スキッパー: 佐藤忠美(会社員 33才 ヨット歴16年) クルー: 遠藤勇(31才 サシミといびきのうさぎでは天下一品), 榊原正勝(28才 唯一のマジメ人間), 石橋靖史(28才 ボンカレーとサラダが得意のcock長), 田沢健夫(23才), 江島俊治(31才), 中島照明(23才) コメント: クルーは全員小生が20' MOLA MOLA時代から育てあげた生えぬき。学生時代のヨット経験者は皆無。初出場なので何事も経験と, 皆さんについていきます。

1193 隆容丸 9m スループ オーナー: 飯泉隆三 スキッパー: 新村俊二 クルー: 吉川房男, 野中渡, 三沢一夫, 中野良夫。

1198 笑い鳥一家 6.86m スループ オーナー・スキッパー: 松田菊雄 クルー: 栗田栄一郎, 中内邦雄, 杉本智昭。

1199 ネオバトス 8.6m スループ オーナー: 村井実 スキッパー: 小黒良太郎 クルー: 藤井得成, 藤原孝一, 松村貴彦, 目賀田正宏, 狩野慎一郎, 遠藤隆。

1200 さら文 9.4m スループ オーナー: 山口正 スキッパー: 高橋勇 クルー: 桜井健次, 斎藤正樹, 金杉久, 上川新, 秋元徹, 岡崎洋典。

1203 甲竜 III 9m スループ オーナー: 地道登志浩 スキッパー: 木村洋一 クルー: 黒崎久宣, 定森繁樹, 小林伸光, 木下俊明, 山崎裕之。

1210 ODIN 7.96m スループ オーナー: 吉田昭 スキッパー: 吉田貞治 クルー: 吉田昭, 飯田三郎, 福永修, 高橋敏夫。

1212 SOYOKAZE II 8m スループ オーナー・スキッパー: 倉本昌治 クルー: 倉本兼治, 三浦竜太郎, 新居賢二, 吉田肇。

1214 WILD ZOO 6.5m BW-21 オーナー・スキッパー: 清水泰武 クルー: 足立尚史, 小合一太郎, 栃木



一夫、(全員独協大学OB) コメント:何とか入賞したいと思う。多分だめだと思うが。艇もクルーもあまりにワイルドすぎて時々海の女神がおどろいているとのことである。となりで走っている船はもっとおどろいている。このレースでは今まで以上にWildにレースをしたいと思う。近くを走っている船があったら(まずそんなことはないと思うが。何故なら私たちが本レース最小艇になると思うので)一緒にワイルドパーティーでもしましょう。

1221 龍飛 II 9.13m スループ オーナー・スキッパー:岩瀬弘一 クルー:堀口信行, 横山一郎, 有田耕二 須藤幸幸, 宮後哲夫, 山本典博。

1226 しろすな III 7.495m スループ オーナー・スキッパー:田中義夫 クルー:舟橋憲治(航海長), 小林良樹(機関長), 林千雄(無線士・ナビゲーター), 坂田恒(コック), 盛田陽一郎(副長・事務長) コメント:造船修理にかけてはセミプロのグループ。伊勢湾育ちで乗艇歴にすると年令すなわちヨット歴。昨年度はマストのトラブルでリタイヤ。本年こそは!! 合ことば「東の海でビールをもう」。

1228 RODEM III 10m スループ オーナー:戸田浩 スキッパー:山下新平 クルー:角田三千秋, 霜山純夫, 所和秀, 大竹哲郎, 山下正明, 佐藤和夫。

1234 ダボハゼ III 10.05m スループ オーナー:土屋徳三郎 スキッパー:木村光成 クルー:本橋一男, 吉川靖夫, 横田正廣, 青山祐二, 釜田哲男, 岡本甫。

1237 TOBA 22' スプレnder-22 オーナー・スキッパー:寺本康郎(歯科医 41才) クルー:吉崎清(近鉄の皇太子特別電車運転士 36才), 西井靖広(29才), 岡田喜代晴(剣道四段32才), 三木貞守(NORC会報担当 47才)。

1245 陽焰 9.105m スループ オーナー・スキッパー:川久保史郎 クルー:川久保正, 三浦正, 宮崎辰二, 太田力。

1255 MAY STORM 7.9m エクメ・ドメール オーナー(代)・スキッパー:松田悠八(ふられの八五郎) クルー:宮沢満(バイススキッパー, サスライの一匹狼), 脇田武(ヘルムスマン, 反権力のタケシ), 八木祥一(ボトムポリッシャー, 銛の大ヤギ), 鈴木誠(号令メッセンジャー, ヒボタンのマコ) コメント:以上5人の他に野口元(ボースン), 清水勝彦(セールトリマー), 内山安二(バウトリマー), 田中義明(ウィンチマン), 久道健三(ウィンチマン), 平塚正基(ヘビーイーター), 岸上高也(チェーンナップ技師)の計12人が全メンバー。分担は決まっているのだが, 自らの分担に手をぬいても, 他の持ち場の奴に平気で口を出すのが我が艇の特徴。おかげでレース中のにぎやかなことといったら。5人いたら5人が船頭なのである。今までの成績は4位からドンジリまでレース順位の経験だけは豊富。ともかく今年がNORCのレース出場はじめての年なのでよろしく。

1256 たけし 6.65m スループ オーナー・スキッパー:西脇正博 クルー:横山武司, 山口俊三, 山本鉄哉, 豊田幸一。

1257 ブルメリア III 9.76m スループ オーナー:小野邦司 スキッパー:八木慶助 クルー:小野邦明, 増古恒夫, 松木和夫, 大沢武彦, 萩原三郎, 中野治, 佐野茂之。

1260 フルール・ブルー IV 9m スループ オーナー:岩佐静枝 スキッパー:渡辺欣哉(早大OB) クルー:秋山福夫(同志社OB), 横関正直(早大OB), 山添素雄(同志社OB), 藤田正博(京都産大OB), 河辺俊雄(同志社OB), 大沢まさみ。

1266 RUN THROUGH 7.49m スループ オーナー・スキッパー:小田良司 クルー:樹田隆, 井上富夫, 福田行宏。

1267 MOJA MOJA 7.4m KQ-24 オーナー・スキッパー:村上嘉昭(29才) クルー:福田視郎(26才), 藤代武史(26才), 飯倉道雄(26才), 石鍋靖夫(25才) コメント:進水後ちょうど満一年。艇, 乗組員ともに充実してきた。艇速を維持して好位置をマークしたい。

1270 わだつみ 38'1 $\frac{3}{4}$ " スループ オーナー:金子一芳 スキッパー:貝沼愼彦, クルー:金子一芳, 渡辺正幸, 熊沢光政, 関戸信明, 大上和信, 藤井信秀, 杉村直樹

1273 ANTARES 33' BW-33 オーナー・スキッパー:木村晃 クルー:諏訪泰久(関西ヨットクラブ), 加藤陽一(フィン経験5年), 森本信昭(M5経験5年), 森上武(甲南大ヨット部キャプテン), 大浦光男(M5経験5年) コメント:関西ヨットクラブの混成クルー。勝敗にこだわらず日頃の練習の成果を生かしたい。

1277 STAYER III 10m スループ オーナー・スキッパー:吉田修 クルー:梅本龍一, 岩村恒樹, 桜井秀夫, 長屋友子, 辻文治, 徳永真理。

1280 FOLLOW THE SUN 38'1 $\frac{3}{4}$ " スループ オーナー:須藤敬次郎 スキッパー:大蔭雅彦 クルー:須藤敬次郎, 金本鐘福, 中村寛, 鈴木優, 大原一徳, 古角博, 末吉澄夫, 米ノ井公夫。

1285 DORIAN 25'6" スループ オーナー:小俣慶祐 スキッパー:清水洋志 クルー:小俣務, 坂爪正博, 小松崎勉, 小原伸彦。

1298 TSIGANE II 24'7" SK-25 オーナー:橋田隆夫 レースメンバー:日下部篤(明学大OB 26才), 石場彰(22才), 森真樹(22才), 小林信三(明学大OB 24才), 橋田隆夫(46才) 廻航メンバー:吉岡一夫(25才), 山根百合子(27才), 高橋雅行(20才)。

1300 TOSHI III 10m BW-33 オーナー:窪山善石 衛門 スキッパー:戸谷寿男 クルー:加藤祐一郎, 大堀広哲, 山路明世, 川上能徳。

1301 千勝 II 7.48m スループ オーナー・スキッパー:藤森紀明 クルー:鈴木正次, 中沢正治, 田内直哲, 鈴木国広。

1310 TSURUGI 7.4m スループ オーナー:鶴飼恵 スキッパー:福沢孝之 クルー:広瀬了一, 鶴飼恵, 中川敏彦。

1314 TRACER 7.49m スループ オーナー・スキッパー:三宅智久 クルー:村田恭司, 柳生和夫, 根岸径



樹、八木正夫。

**I315 CHA CHA 7.27m** スループ オーナー・スキッパー：後藤義国(27才) クルー：後藤英行(ナビゲーター 25才)、伊沢利雄(29才)、真壁功(28才)、狩野 和夫(26才)、井上悟(26才) コメント：艇ができたばかりなのでチューニングは殆んどしていない。鳥羽レースが初レースになる。試走の結果は上々、レースに出るからにはもちろん優勝をねらう。

**I320 MOON RAKER 7.47m** スループ オーナー・スキッパー：林賢之輔(32才) クルー：安岡忠義(30才) 大脇譽次(28才)、島敬悟(24才) コメント： $\frac{1}{4}$ トナーとして他の $\frac{1}{4}$ トナー、特にオセアン22、25、エクメスポーツ、テキーラ等外国の設計艇を目標に頑張る。全くの超微風か、台風並の風が吹くことを願う。チームはまだできて日が浅いが、経験者ばかりなので心強い。

**I322 翔雲 6.65m** オセアン22 オーナー・スキッパー：正井良和(29才) クルー：高山晴夫(29才)、西垣洋(関西学院OB 27才)、崎浜克樹(関西学院OB 23才) コメント：翔雲は小型艇ですので、こまかく走ります。

**I323 AYA II 7.45m KQ** オーナー・スキッパー：都築勝利(日本クォータートン協会中部支部長) クルー：杉浦謙、大村武司、榎原秋元、新美大蔵、富川則之。

**I328 MAY FLY II 7.49m** オセアン25 オーナー・スキッパー：小林浩治(26才) クルー：平松孝道(マネージャー 30才)、志水英敏(26才)、近添雅行(コック長 26才)、石河正顕(30才)、椎名敏一(26才)、秋元正治(31才)。

**I330 波勝 III 30' SK-30** オーナー：加藤鶴喜知 スキッパー：加納敏夫 クルー：三船清治、川島正通、田村真郎、西浜正晴 コメント：SK-30 1号艇で初陣ですのでどの様な帆走ができるか判らないが、私達ファクトリー・チームにとってここで良く走らないとおまんにひびくのできびしいところ。波勝IIIは実験艇としてできる限りのテスト、試作をしていくつもり。

**I337 L'ECUMEUR 7.95m** スループ オーナー・スキッパー：瓜生昭一 クルー：瓜生常夫、山口憲夫、前田利一、下里周一、鈴木秀則。

**I348 RHAPSODY VIVACE 48'** スループ オーナー・スキッパー：蔭山陽三 クルー：富本、高橋保治、松見稔、後藤伸雄、松岡敏、早川進、村本信男、村木純子、花岡、高橋幸吉、追加乗組：斎藤茂。年令は全員自称20才 コメント：日本最長のレーサー。何がなんでも First Home !

**I368 日吉丸 7.4m** スループ オーナー・スキッパー：細沢孝仁 クルー：細沢徹也、奈木三郎、清水正明、市川和義。

**I373 猪牙(チョキ) 7.49m** オセアン25 オーナー：佐藤誠幸 スキッパー：九埜正明、クルー：岩元道夫、佐藤昌弘。コメント：7月14日進水、練習する間もなかったが、 $\frac{1}{4}$ トンの他艇に負けぬようがんばる。

**I377 湊 7.2m** テキーラ・スポーツ オーナー：金坂鎮道 スキッパー：松永昌平(27才) クルー：金坂鎮道

(32才)、秋谷実(26才)、甘粕順一(24才) コメント：太陽と風と海、これある限り我々は帆走するのみ。

**I378 FUJIKO III 7.48m KQ-24** オーナー：寺崎健作 スキッパー：田中欣彦(20才)、クルー：寺崎健作、田中龍雄、岡田憲佳、小沢茲雄。

**I404 TERU TERU II 35'** デュフォー35 スループ オーナー・スキッパー：山口照雄 クルー：近藤植之、岡本豊、秋沢一博、小泉直樹、横川虎雄。

**I415 BUDDY 30'** アルベージ オーナー：大高一夫(34才) スキッパー：山田敏雄(21才) クルー：品田勉(27才)、荒居達雄(26才)、赤川信男(26才)、伊藤喜明(24才)、新堂友子(23才) コメント：7月8日に進水したばかりの艇で、安全備品等必要品をやっと間に合わせた状態。レーティングも正式なものはでておらず、どこまでやれるか自信はないが、スキッパーをはじめ、女性クルーまで全員ディンギーのレーサーという強味を生かしてゆきたい。

**I419 STAR OF BETHLEHEM 6.5m BW-21** オーナー・スキッパー：茶谷博文(26才) クルー：茶谷啓治(23才)、茶谷昇(21才)、佐々木満義(27才) コメント：兄弟クルーでチームワークが最好。パールレースは勿論初参加なので、完走し、できれば中位に入りたい。

アンケートと出艇申告書をもとに書きました。NORC 開開以来最高の回収率(60%)。その為スペースが足らず、一部簡略にまとめました。御了承下さい。(会報担当 近藤)

## 本職もびっくり——

## ——“たかとり”苦節7年

1101“たかとり”が7年ぶり遂に完成、7月15日、油壺港奥の岸壁上で、設計者・渡辺修治、同艇に多大の協力を惜しまなかった加藤ボートの加藤鶴喜知社長を始め、下條晋代表オーナーや協同製作者ら16名が集り、神職のもと、完成祝いの神事が行われた。同艇は、617“足柄”と同型艇、ハルはマホガニーの2枚ばり、クリーム色の滑らかなペイント、艇全体細部に亘りその仕上りは実に美事なもので、誰の目にも自作艇とは見えず、本職が舌を捲く出来栄である。

昭和41年の大みそかに造艇小屋が完成、線図に半年、材料を買ってノコ1本から始め、みかげ石の土台にキール・フレームの据え終わったのに約2年間を要したが、加藤ボートの型にピッタリと合った時はすっかり嬉しくなったとのこと。東芝に勤める社会人の下條オーナーが、幾多の困難を乗り越えコツコツと頑張り、7年間の苦労が結実、小屋をこわしてジャッキアップ、コロでソロソロと引き出したそう。パローのウィンチ、川島のセール、ヤンマーYS3の補機、百聞は一見に如かず、クラフトマンシップの権化なり。



## “鳥羽ヨットクラブ”の御招待

ロス→ハワイのトランベックレースから見ると、沖縄レースはミニ、鳥羽レースはミニミニトランベックと言えないだろうか。

各地のフリートから回航・集結する100艇あまり、集うエリートセラーも700人を超すと思はれる。鳥羽レースも14回、一応世界的な規模になりつつあり、大変なエネルギーの凝集であり、鳥羽レース・フィーバーの流行だ。

遠い地方泊地から、年一度のこのレースを楽しみに参加される方々は口々に、もっと鳥羽レースの様な地方艇の参加出来るレースを企画・運営して欲しい、との要望が強い。

鳥羽港の最奥部にある鳥羽フリート、そこに新しく“鳥羽ヨットクラブ”が誕生した。小人数のメンバーシップのミニミニヨットクラブである。港湾最奥部に河合造船所があり、10数艇がけい留されているが、それより200メートル前方に特別けい留地があり、それと対向の道路をへだて、100坪余りの私有地に2階建てのシックなクラブハウス、これが“鳥羽ヨットクラブ”である。常駐者はいない。入口を入った広場は駐車場、1階は吹き抜けでテンドーや雑具の置場とユーティリティ、横のミニミニプールの先の階段を上るとミニオフィスと日本間があり、その奥にヘッド×2・シャワー×2とギャレーのアコモデーション、建物の廻りは海と艇の見渡せるテラス、必要にして充分の好プランである。

鳥羽レースに先立ち、レース参加艇のオーナーと夫人、スキッパーにあて、パーティ御招待の通知を頂戴した。8月1日の夜、前々夜祭である。

もともと大先輩の大橋郁夫先生の肝入りとサジェスチョンで生れたもの、会長は吉田弘明、チタの遠航・征戦の雄、どなたも良く御存知のはず。奥さまともどもパーティの準備に大童わ、汗を流しておられた。この様な時は会長とは仮の名、雑用労務員に過ぎないのだ。でなければこのミニミニヨットクラブの運航がスムーズに行かないと思う。この人事は誠に当を得た正解なりと感心した次第。

NORC会員の中には、チーとばかりの会費を、払

ってるゾと、ツベコベ偉そうに言う人もいる。そういう人は吉田会長のツメの垢を送って貰い、煎じて飲め。目のウロコが落ちて、少しは世の中のことが判ろうというものだ。

寺本康郎副会長は鳥羽フリートのキャプテン、地元の犬歯科医、青年会議所の会長をしていた有力者、白皙長身、金も力もある美青年で無数の好人物である。若く美しい奥様とはお雛様のような好一對。鳥羽は暑いゾ。

壺焼きの匂いがあたりに漂いはじめ、引き寄せられる様にして、三々五々、NORCの常連が顔を出し始める。風見の早いのが超ベテラン金指昭郎・貝道盛孝ら“CRAZY BLUE”、“やアヤア”と東かた、油壺は金原良一F.C.と“LOTUS”一家に、もとミス油壺の重田恵子、西かたは、的形の“熊野II”大石哲也ジュニア。このパーティには特別な開会の辞なんて面倒なものなしのインフォーマルパーティだ。

花が飾られ広場に置かれた大きいテンドーの中からビール・ジュースの大サービス、間髪を入れずにサザエの壺焼き、どんどん人が増えて来て、ヨットクラブの奥様方はテンテコ舞いの忙しさ。あレーッ、アメリカにいるはずの内田義明は夫人と子供の家族づれ、藤井浩ドクター率いる“JOKER II”は田原・勝目・高橋・玉倉らヤブグループ、確かメンバーで接待側のはずなのに客になっている、どうなってんの。河合造船のオヤジ、ニコニコと嬉しそう。あなたにはずいぶんとご迷惑をおかけしました、お許し下さい。“TRACER”の三宅忍者ツツと現われ、丹羽チタ氏と何やら作戦会議、“さか”のオーナー大木キャプテン、記者にからまれ大弱り。衣浦は“FIVE ACE”の梶田一家もいる。

腹がへっては戦さは出来ぬ、今夜のメインディッシュは“雲丹めし”なり。ウニとアワビとサザエが炊き込んである珍味、まずい訳がない。お替りの催足しきり、舌つづみを打つ。

夜も更けて千鳥足、美味かったです、楽しかったです。メンバーの皆様、有難う。御好意に感謝・感激あめあられ。

また来年も宜敷お願いいたします。手土産さげて参ります。



鳥羽ヨットクラブ



パーティ風景



## “阿波踊りレース”と徳島外洋帆走クラブ

「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにヤソソソ」,見る側に立っても、すばらしく楽しく、また妖しく美しい“阿波踊り”を、徳島外洋帆走クラブの誘惑にのって今回は、踊る阿呆の側に立つことにした。

徳島のクラブでは5月の連休に、沼島を回航する“鳴門海峡横断レース”を実施、高松フリートから1182“白峰”三田オーナーのオープン参加もあって、大きい刺激となった。この時は、片山ドクターの“青藍”がファーストホーム、山内会長の自作艇“八万Ⅲ”が修正で総合優勝した。

徳島港入口の沖に横一文字の防波堤があり、満潮の時は低いヨット艇上から見え難いので要注意、港口を入り最奥部に向って機走約40分、両側に小型鋼船のけい留を見ながら“かちどき橋”に至る。こゝが徳島の艇群10艇あまりのけい留地、各艇でアンカーを打っている。道路をへだてて県庁舎の正門玄関、けい留はタダで今の所問題はないそうだ。その分には、現知事の次期当選は確実だろう。

山内弘文会長、もう還歴という御年輩、小柄でとても柔和な方、若々しいのには驚く。もとジャーナリストの現県庁、何ととっても潮気が溢れているのです。

徳島外洋帆走クラブのオフィスは万代町、旧漁連の前、郵便局のとなりの“シーマンライク”にある。ここのキャプテンは、レースの運営を一手に引受ける瀬川脩城30才その人、クラブ事務局長だ。話しはツーカーで、最も尖鋭なヨットマンである。店に入ると各種の船具や機装品、安全備品にアクセサリ、ディンギーまで置いてあり、これだけ揃えているのは関東でも稀れ、その奥はティールーム兼バー、調度はすべてシーマンライク、ゆったりとしてヨットマンにピッタリのムード、徳島のクルザー乗りが夢を語るアンカーリング場所だ。

第1回“阿波踊りレース”は紀伊水道が大平洋に出る所、伊島を回航のコース、伊島の四国側は洗岩で危険のため、マークボートの漁船又は灯台を0°にみる点でタックする。弱小新興の地方フリートだけに、このレースに関して周囲からの中傷があり、逆に闘志を燃やしましたと瀬川委員長。HORCだよりの第9号でレポートした“釜山レース”でも、福岡の別のマリクラブからの妨害・中傷が韓国側にも及び、泣かされましたと大原ドクターがこぼしていた事を思い出す。NORC会員が参加もせずに文句を言うより、堂々と自艇で参加・挑戦して実力を披露し、模範を示すべきであろう。

台風10号が去っても風は落ちず、雲は速く時々雨の時化模様、他のフリートからの回航が望めず出場は5艇、10艇以上は期待していたと瀬川さん、空を見上げてうらめしそう。なァに、天下の八丈レースとて第1回は5艇、第2回も6艇だった、恥かしい事はありません。艇長会議は1200、参加艇は“青藍”BW-24、片山英太郎オーナー・瀬川スキッパー・片山・塩飽・山本・池上、“八万Ⅲ”山内会長オーナースキッパー・真鍋・三木・斉藤、“白龍Ⅲ”31、岸路取スキッパー・浅野・榎野・麻生、“アーキツ”サンビーム22、真鍋通康オーナー・石立公伯スキッパー・赤沢・中川・間・岡田、西宮より“瀬戸”渡辺の33、藤岡博之スキッパー・杉原・寺本・新矢。

2300頃、各艇思い思いにアンカーを上げ港外に向う。雨がパラパラ、時々強烈なブローあり、2ポンリーフだ。記者は“青藍”のクルー、“白龍Ⅲ”にはポートアンドヨットの太脇誉次取材記者が乗り込む。外側堤防の红灯と、アンカーしたモーターボートを結ぶ線がスタートライン、各艇タックを繰り返しラジオの時報を待つ。風はSの12M位か、真向いとはシンドイ。雨で視界は悪くうねりは高い、上げの逆潮なり。

0000の時報で殆んど同時のスタート、135°のコース、“青藍”は潮を嫌って岸より作戦。0052“瀬戸”がスプレッダー下部をディスマストしてリタイヤ。時々キャビンを超える波に体が浮いて流されそう、デッキで失業の記者はキャビンの中へ、ヤカンがジンバルより飛び出す。記者も体の支え様がないアクロバットの難行苦行、体が宙に舞い背骨をしたたか打つこと幾度か、恥かしながら全部吐いた。あとで聞くと全員吐きながら頑張ったとのこと。

夜が明けて伊島は目前、勿論マークの漁船は出ていない。灯台0°でジャイブ、前方に“白龍Ⅲ”が伊島に



阿波踊りレース表彰式



突込むのを望見。追い波にサーフィングの素晴らしいスピード、雨も上り昨夜と位極楽極楽の滑りだ。0806ファーストホームを飾って全員苦勞も吹き飛び、とたんに「ああ腹がへったなア」。あわれマストの折れた“瀬戸”の横にアンカーを落として待つ間に“八万Ⅲ”と“白龍Ⅲ”が入る。“アーキツ”は沖に出し、潮に流され上れずリタイヤした。

1700よりシーマンライクで表彰式、マークボートに通信に多大の協力のあった小松島マリーナ・関進社長と木村公明氏列席され、盛大な拍手のうちに総合優勝“青藍”に優勝旗と大カップ、“八万Ⅲ”と“白龍Ⅲ”にクラス優勝称、“瀬戸”には遠来賞杯、全艇に参加賞のブーツが手渡され、ビールで乾杯、パーティに移行した。小松島海上保安部には通信に巡視艇にと、一方ならぬ御援助を頂いたようだ。

話題の果てないパーティから、用意されてあった揃いの阿波踊り衣裳に着替え、即席コーチを受け、優勝旗を振りかざし、ダンホースを打ち鳴らし街へ出る。踊りと人の渦々々、飛び込みの会場でヨット連ですと紹介のアナウンスの声高く、一同踊り狂う。昂奮した外人女性、ヨット連に踊りかけてくる。汗リンリン、無我無中の数時間。

冷たいビールに疲れを癒し、再会を約して去る。徳島の皆さん、有難う。瀬川さん、又来ます。

## 館山だより

風間孝策

館山港の1241“HOT DOG”風間オーナーからの近況リポート。

今秋、開催される若汐国体のヨットハーバー計画は、東洋一の規模をめざして、クルーザー 300 隻、陸置き 500 と艇庫とクラブハウス。江の島の3倍の大きさになる予定で、大いに期待していましたが、漁業組合の反対でハーバーの場所や規模も二転三転し、クルーザー300から100へ、そして50隻、しまいに0隻になり、東洋一小さいハーバーになりました。結局完成したのは、ディンギーを上げ下げする50mのスロープと艇庫、それにテトラポットの防波堤という情けないもの、勿論民間資本のハーバー計画も、漁業権問題でパー。

館山湾のクルーザーのけい留は、館山港(商港)と、船形港(漁港)です。館山港では、西側のはずれ、自衛艦の先の防波堤に10隻たらずけい留しています。これは海上自衛隊の本間明和氏(カリブソのオーナー)の御尽力で、自衛隊との問題や漁業組合との関係を解決され、来年には合計15隻程度ならと計画しておられます。

一方船形港は7隻のけい留ですが、これ以上艇が増える事は漁業組合とのトラブルが起る可能性があります。

す。水深が浅く、西風に弱いので、今春3月の大西が吹いた時は、走錨やもやい切れがあって、相当なダメージを受けています。

船形港でのけい留は、木造23'“あじさい”和泉オーナー、スプレングー19“朝霧”林田、ジャンカー19“シエタマリス”佐藤、BW24“どるふいん”中村、ビバシティ650“アニマ”斎藤、BW21“タルカス”鈴木、BW24C“ボンボヤージ”平山。館山港では、BW21“フリーランサー”広川、BW21“ドラ”森下、木造31'“ホットドッグ”風間、ジャンカー19“シゲミ”加藤、木造25'高木、スカンピ為我井、ジェロニモ石山、ヴンデ・スタット30'本間。

館山ヨットクラブ(田中夏積会長)のもとで、クルザーは毎月1回、館山-浮島16マイルのレースをポイント形式でやっています。これは親善的なレースで、レーティングはNORCの同型艇を参考にし、さらにスキッパー・クルーの技術でハンデをつけています。レース以外ではランデブー形式の大島クルージングがあります。

今秋や来春進水予定の新艇はNORCの各種レースに出場する様子です。将来の館山フリート結成に、NORCの役員・会員の方々の御協力を心からお願いいたします。

## 福岡だより

大原 敦

### — “第2回玄海レース” —

福岡地方の今夏は、气象台開設以来の猛暑つづき、レース参加は25艇、7月14日 18:00スタート・微風予想で、船越港→長間瀬灯台→小呂島→船越港(40哩)とコースを10哩短縮、タイムリミットを4時間延長、雲一つない快晴の無風で、8時間のベタ風気には全員バーベキュー死を覚悟しました。

烈風でさんざん痛めつけられた“釜山レース”の風がなつかしいなどと、ヨットマンは勝手なものだと思います。9月15日の連休に“佐世保レース”があり、強風のスピードレースとなる事を期待しています。

レース結果は7日08:35“ホンキートンク”がファーストフォーム つづいて“バルバ”“マルコⅡ”がフィニッシュ。総合順位はバルバ、クオーレ、白鯨、ネオアンタレス、ホンキートンク、ワイルドキャット、山笠、スカーレット、ジュンブライドⅢ、ドンタク、マルコⅡ、鳴海屋丸、さむらい、サビエ、アポロニア、トムetジュリー、サンユウⅡ、アーキツ、シーベル、エスポアル、銀河、志摩Ⅱの順でありました。アウトサイダー、F-II、オサⅢは残念ながらDNF。



## 〔艇・会員紹介〕 夢かと驚くダントツ写真“BUGS BUNNY”

「NORCだより」第9号の表紙の写真を見て、ネガが裏返しでないと驚いた。

八丈レースのスタート写真であるが、1067“BUGS BUNNY”が、1100“旭”や667“KAY SEVEN”・“1277“STAYER III”・1200“さら文”・380“THETIS”・1228“RODEM III”以下の直参大名を従えてのダントツだ。

井上直彦オーナーに問い合わせると、

「ひゃー、私もビックリしています。出ると負け、コミッティ泣かせの“BUGS BUNNY”ですからネ。」

「“BUGS BUNNY”は御存知の通り、ウォルト・ディズニの漫画の中の出っ歯の兎です。我々の世界では『出来損い』又は『下手クソな』という意味があります。」

と先生嬉しそうに言われる。井上スキッパーは東京医科歯科大の助教授で歯科矯正学。アメリカでは治療の失敗例を“BUGS BUNNY”の様なと説明するらしい。

「八丈のスタートはダントツだったのですが、始め良ければあと悪し、強風にワイルドジャイブしてメンスを破り、トライスルで稲取に引き返し、DNFとなり残念でした。それでそのあとの大島レースに出る事が出来ず、また今度の鳥羽レースにはメンバーがそろわず欠場しました。」

見るからに優しく、温厚な学者先生のムード、ところが意外やレース至上主義者なので記者もビックリした。先生の手帳には1年分のレース・スケジュールが記入されており、結婚式があっても手帳を示し参列を断られるそうだ。お葬式はお通夜もあることだし、何とかつじつまが合う由。そういえば、72年度は完全に全レースを消化しているのだ。

NORCだより第6号の福永元レース委員長の“レースこそ最善の手段”の信奉者。

「ヨットによる航海・運用・整備などに関して、レース程真剣に取り組む、実地訓練の能率を上げてくれる方法はないと思います。私達も一定の条件下を逃げることなく帆走し、少しでもより高度のテクニックを身につけ、安全なセーリングを楽しめるよう願っています。」

「でも現実にはきびしいですネ。レースに出て、周囲の他の艇がどの様なコースをとるのか、どんな時にスピンを上げ、どんな時にリーフするのか、良く見て勉強しようと思っているのですが、いつも我々は置き去りにされていて、周囲に誰もいない海を黙々と走るだけ、情けなくなるときもありますが、それでも何とかしようと一生懸命走っています。」

「全然セーリングを知らずに始めて手に入れたのが、千葉大の船令12年、輝かしいレース歴を持つ“くろしお I”でした。ズブの素人の集りの我々の内で、ヨット歴があると自慢する伊藤学而は東北大助教授ですが、何でも学生時代に山中湖で一度貸しヨットに乗ったこ

とがあると言うのですからヒドイ話です。その彼もレースの度に仙台から出て来て、夜行で帰るという熱心さです。」

「あんなこんなで、やっとの思い。なんとか油壺ハーバーから出港、ともかくもとのボンツーンに帰って来れるようになったのは、親切に指導して頂いたヨッテルの山ちゃん・浮さん・成さんや境野さんのお陰です。」

中年になってヨットを始められた会員は御同感だろうと御推察申し上げます。

「メンバーは6人の共同オーナーも同じ教室で親しかった仲間で、神奈川歯大教授の鈴木伴井、東北大の伊藤、歯科医師会理事の三輪一郎、そしてレースメンバーには若手の東光夫助手、大学院生の栗原三郎、学生の上田博、教官の草川貴久などでガッチリのチームワーク、予備軍に“バックス・パニー”が取り持つ縁でゴールインした若林昇・澄技のカップルを始め数名おります。」

現在の艇は46年3月進水した岡崎製のFB-IIIのスタンダード、セールは川島でフル、ヤンマー7馬力の補機を持つ。

「スタート前の艇長会議の席で、『早くフィニッシュするように』と呼びかけ、おそい私達がやっとの思いでフィニッシュすると、『これでレースを終了します』と大声で宣告される方もおられ、このような時には同じNORC会員の仲間とはいえ、余り愉快ではありません。私達だって好きこのんでゆっくり走っているわけではないのにと……これはヒガミか甘えでしょうか。もう一つ、レース中に後方にレース艇を発見、今回はビリではないと喜び張切っているとその艇がDNF、又もやシンガリの苦汁を飲まされる訳です。下位になりたくない気持は良く判りますが、あまり気軽にDNFをしないで欲しいと思います。」

「いつもおそい私達を暖く迎えて『御苦労さん』と言って下さるコミッティボートの方々や、ご迷惑をおかけしているNORCの皆様、良く遊んでくれるハーフトンの人達に心からお礼を申し上げます。1日も早く、成績表の数字を○で囲んで貰える様頑張ります。」



BUGS BUNNYの仲間たち



## 海空の支援、東海支部の 安全フェスティバル

9月15日、伊良湖港に集結した東海支部の外洋艇三十数艇の偉容を背景に、各艇スキッパーは広場に集合、東海支部・中村孝安全委員長の海難救助訓練の実施要領の説明を受ける。海上保安部の方々、榊原伊三理事や日比正光事務局長ら主力メンバーを始め、前夜から各フリート毎レースを兼ねての参加、特に衣浦フリートの艇群が目立っていた。

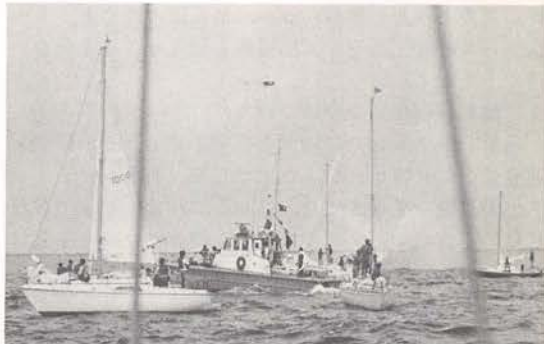
13:00、各艇一せいにし出港、衣浦海上保安署長の指揮のもと、衣浦より巡視艇“きぬかぜ”と蒲郡よりの“かめかぜ”を中心に、空から保安庁のヘリなど2機、風力もやや強く絶好のコンディション、巡視艇を取り囲む様に各艇が廻り、訓練開始となる。

最初は突風を受けたヨットが転覆、落水者発生・漂流中の想定、信号紅炎をあげて救助を求めると上空のヘリは落水者を発見し無線で巡視艇に通報・誘導し救助に成功。次は火災発生艇、クルーはライフラフトで

脱出、各巡視艇は各2本のポンプで放水・消火にあたる。最後は曳航訓練、マスト折損・帆走不能艇の救助信号を受け、各巡視艇が2艇ずつの縦列曳航を伊良湖港まで続ける。巡視艇上の角田博支部長も大忙しの活躍、記者も小田高大ドクターの“いぶき”に乗艇を許され、寺本康郎鳥羽フリートF.C.や稲垣寿男スキッパーと共に、海空一体の訓練ぶりをつぶさに見学、なかなか迫力ある海難救助訓練なりと感銘を受けた。

18:00、安全フェスティバル恒例の懇親パーティは伊良湖港観光センターで盛大に催され、夜おそくまで賑やかな交歓が続いた。

海難救助訓練中の各艇



## 無風に泣く 沼津清水 神子元島回航レース

(帆走委員長 岡村欣一良・内海勝利・加藤武)

新鋭艇がぞくぞくと増加、外洋レースに意欲満々の駿河湾沼津・清水両フリート共催の第1回、NEの風弱く各艇15～18時間をかけて神子元島を廻ったあと無風状態、漂流して第二夜を明かし、結局コースは短縮された。

16日、18:00より三津浜(浜)の先の木負(きこ)に浮かぶ5,100トンのデラックスヨット“SCANDINAVIA”のスポーツデッキ、まずは素晴らしい雰囲気、帰投のレース艇を迎えて、秋山欣徳ドクターの御世話・沼津フリート湯浅明彦・加藤武委員設営の表彰式パーティ、レースメンバーや御家族百名を越す盛会、神子元島回航レース・第2回田子島回航レース・駿河湾往復シングルハンドの賞状・賞杯がズラリ、盛大な拍手と共に各入賞艇に手渡されたあと、レース参加の周東英郷計測委員長の音頭で全員乾杯、いっしょに美味・豊富なグンパツの食事が魅力だ。

コミッティで大活躍の岡村欣一良清水フリートF.C.と内海勝利委員のお話では、“相模湾のフリートのレース艇とのランデブーや合同レースを是非実現させたい。また、賞杯や賞品、パーティ目当てでも駿河湾に入って来て戴きたい。ゲストブイの10や15は用意します”との嬉しいお言葉。君、ドウスル!

### 第1回・神子元島回航レース成績

昭和48年9月15日 三保真崎スタートB=01.00 A=03.00

セールNo.	艇名	オーナー名	T.C.F	クラス	順位
1370	WINDY	奈木三郎	0.730	A	①
1361	MIMI II	竹下明	0.741	A	②
1352	KOCHI II	藤巻和佳	0.787	A	③
1177	巴流	内海勝利	0.745	A	4
1403	VOLANS II	高田尚之	0.750	A	5
1344	TOKI II	笠間明	0.698	B	①
1085	青雲	杉本光昭	0.683	B	②
	さむらい	大宇根稔	0.694	B	③
	バロン	塩川孝二	0.690	B	4
1287	MACH II	高岡恭之	0.699	B	5
	ゴルゴン	市村俊明	0.698	B	6
1363	小政	山崎薫		B	7
	スイートハート	安富慧	0.688	B	8
1356	SUN MAY	橋本健	0.686	B	9
1374	マンボー III	八木達郎	0.695	B	10
1166	COMANCHE	新屋慎太郎	0.683	B	11



スカンジナビアでの表彰式 (撮影・遠藤泰弘)



## 委員会報告

### 〔計測委員会〕

#### 1. IOR MKIII について

MKIIに依る計測は、10月以後は多少の余力が出そうである。当委員会としては、早くMKIIIへ移行すべく、MKIIの計測作業に平行して、MKIIIの解説（技術委員会の協力を得て）作製等、着々準備を進めつつある。本年度末までには、移行時期、方法、計測料金等が発表できると思われるが、MKIIIの性格上、レベルレース艇と国際レース出場艇を優先せざるを得ないので予め御承願したい。

#### 2. 簡易レーティングについて

簡易レーティングに対する要望を考え、その研究・開発並びに公報を行なうことにして、簡易レーティング小委員会を発足させた。しかしこれはあくまでNORCの正式のレースにではなく、個々のフリート又はクラブのレースに使用すべきであろう。即ち、簡易である以上、必ず抜け穴があり、厳密に公平さを求めるレーティングルール本来の目的に反するからである。厳密に公平を追求すれば、窮極はIOR MKIIIまでいってしまい、“簡易”の意味がなくなるであろう。

小委員会の方針としては、先ずNORCだよりの前号に、渡辺修治技術委員長の発表された“NAYRU RULE 1973”をたたき台として、IOR MKII レーティング所持艇の個有動揺周期を調査し、MKIIとのトレランス範囲を明らかにすべく作業を開始した。また、鳥羽レース用の簡易レーティングの“D”の計測方法の改善等の研究を続け、来年度シーズンインには間に合うように、結果を公表する所存である。

#### 3. 安全検査に合格していないと計測は受けられなくなりました！

最近、被計測艇のなかに、安全規則で必要とされている安全備品（特にトリムに影響を及ぼすアンカーetc.）を搭載していない艇、または、他艇から借用し搭載して計測を受ける艇（この場合には、種類・重量・長さetc. がレースの際に搭載されるものと異なるケースが多い。）が増えてきた。

6月15日に開催された計測・技術合同委員会でこの問題を検討した結果、正確かつ公平な計測を円滑に実施するために、「安全検査に合格していることを計測の条件とする。」ことが決定された。

これから計測を受ける艇のオーナーは、必ず、事前に安全検査を受けて合格しておいて下さい。

#### 4. レーティングの試算サービスについて

計測委員会では、コンピューターによる、IOR MKIIおよびMKIIIに基づくレーティングの試算サービスを実施している。レーティングの試算を御希望の方は、レーティング算出依頼書(NORC事務局にある。)およ

び計測データに実費(1艇につき¥3,500.)を添えて、計測委員会にお申し込み下さい。

(注)①試算用レーティングは正式・有効なレーティングではありません。正式・有効なレーティングが必要な場合には、別途、計測の申し込みをして下さい。  
②試算用レーティングは、公式・非公式を問わず、いかなるレースにも用いることはできません。

#### 5. 計測・レーティング・ルール・ブック

(1) IOR MKII 原典コピー及び日本語版、(2) IOR MKIII原典コピーを、実費で会員にのみおわけしています。御希望の方はNORC事務局にてお求め下さい。

### 〔通信委員会〕

第8回通信委員会 8月23日 NORC本部にて、

出席委員：大谷、清水、伊藤、渡辺、安藤、横沢、武藤、白崎。

議題：①鳥羽レースの無線使用報告。②「舵」誌に通信委員会の報告をのせる件につき、「舵」誌の賛同を得たこと。③夜間の特殊無線講習会を今年中に開催する為の準備の件。④2メガ及びVHF波の専用波取得につき、関係官庁と交渉を進める件。⑤2メガ無線機のヨット向で廉価なものの開発をメーカーに依頼する件。

以上につき討議しました。今後これらの実現の為アクティブな活動を行なうつもりです。

### 〔レース委員会〕

7月23日：船舶ビル10階会議室にて「会員の声を聞く会」開催。

「鳥羽レース運営に関する件」「小型船舶操縦士免許に関する件」「船籍登録に関する件」等につき活発な質疑応答が行われた。更にアンケート用紙を配布、会員各位の御意見をうかがうことにしたが、回答は2名のみと低調であった。

アンケートにあった主な御意見は、「小型艇及びビギナー向けに、カテゴリー4のレースを開催してほしい。」「レースに出場しない艇の多くは安全検査を受けていないが、NORCは指導・教育的立場に立って、全加盟艇に実施すべきである。」「外国のケースにならい、ビッグレース等にはスポンサーをつけ、楽しい催しにしてほしい。あまりアマチュアリズムを尊重することはないのではないか。」「オリンピックコースのレースを作ってほしい」等であった。それぞれ各委員会にて検討中です。

#### 8月14日：緊急レース委員会

第14回鳥羽レースにおける“Rhapsody Vivace”より提訴の件につき討議。慎重審議の結果、下記理由により失格とし提訴を却下しました。

1. IYRU競技規則第3章(18項)違反。
2. IYRU競技規則第4章 A-31項の2違反。
3. NORC外洋レース規則第1章第4条4項違反。



## 新登録艇の紹介

セールNo, 艇名, 帆走, 全長×水線長×巾×  
吃水, オーナー名, フリート, その他の順

### 〔関東〕

1135 AIA (アイア) S 6,500×5,400×2,040×1,400

福田英秋 葉山 艇名の由来: 狐の女神 (元のトレーサー)。抱負: 連戦連勝!!

1383 天城 II S 10,000×7,870×3,150×1,780 渡辺

修治 小網代 艇名の由来: 「天城」の2代名。抱負: 3/4トナーとして、短・長距離レースに備え、艇・ギヤー・セールの整備, Navigation, Seamanship のきびしい錬磨を通じ、艇と艇長・クルーと一体になった水準の極限を追求したい。クルー: 星護郎 鈴木康之 太田弘豊 山下精一 渡辺康夫。NORCへの要望: NORCは日本及び世界のヨット界に於いて、オーナーの利益を代表する機関と割り切ってほしい。艇とクルーの安全に対する全責任はオーナーにあると明示すべきである。

1403 VOLANS II S 9,760×7,865×3,046×1,800 高

田尚之 (共同オーナー) 沼津 艇名の由来: 飛魚座の学名 (ラテン語) を借用。とび魚の如く優雅にかつ早くの意味を含ませた。一世はCAL24。抱負: クルーシングばかりでなく、時にはレースにもと欲ばっている。クルー: オーナー且つクルーの顔ぶれは全員が若き医者ばかりで、高田尚之 (歯科), 原紀道 (皮フ科), 飯田昌義 (産婦人科), 計見一雄 (精神科), 藤本重義 (病理・在カナダ), 藤林孝司 (歯科・在ニューヨーク)。小さな手術だったらクルーザーの中でできます。千葉大ヨット部OB4人が中心になり修業中。NORCへの要望: 四周海に囲まれたこの国の設備のあまりに貧相なこと。これを改善することに力をいれてほしい。なれあい主義を極力なくす様にしてほしい。関東海域ばかりでなく地方にも充分目をむけてほしい。ガツガツすることなく、ゆったり海を楽しむ様にしたい。

1410 銀河 S 7,480×6,000×2,590×1,300 鶴久森徳

雄 シーボニア 艇名の由来: せまい日本そんなに急いでどこへ行く。のんびりと大宇宙をながめながら帆走したく銀河と名づけた。抱負: できるだけ多くレースに参加して皆と楽しみたい。クルー: 皆ディンギー乗り仲間。

1411 速鳥 II S 7,490×6,100×2,300×1,550 名當

英臣 油壺 艇名の由来: 遣唐使船播磨及び速鳥渡航の史実より命名。抱負: 家族を中心ののんびりとセーリングを楽しみたい。クルー: 家族 NORCへの要望: ①泊地対策 ヨット関係団体がまとまって強力に推進してほしい。②免許対策 今からでは遅いか①と同様。

1412 SEA URCHIN S 7,494×6,096×2,363×1,524

生貝稔 (共同オーナー) 諸磯 艇名の由来: 前の船の英国人オーナーがつけた名前直訳は「海胆」であるが、スラングの「海の腕白小僧」が気に入り継続使用。抱負:

皆が50才位になったら気ままに世界を船でまわりたいという欲望を持っており、それを実現するため少しずつ大きい船に変えていく予定。クルー: 慶応大学の海洋研究会の40年、41年卒業のOB11人で所有。佐藤剛、橋本博、中西克誠、堀場志朗、丸山公一、桑原孝、上柳隆、島田祐治、善塔勝一郎、山口孝雄。NORCへの要望: 保留場所の整備・拡張等をハーバー関係者と協力してほしい。

1414 VAGO III S 45'-00"×36'-6"×13'-00½"×

7'-00½" 武田陽信 シーボニア 艇名の由来: VAGOI, VAGOIIの一連の国際レースの総決算をするアルミ艇。抱負: 1973 サザンクロスシリーズ, シドニー・ホバーレース。1974 S.O.R.C., パーミューダレース, 大西洋横断レース。1975 Cowes Weeks. アドミラルカップ。NORCへの要望: 日本艇として初出場のレース多し。応援して下さい。

1415 BUDDY S 9,250×6,700×3,000×1,350 大高

一夫 シーボニア (下田) 艇名の由来: 海の仲間が集まっているので。抱負: レースにぼつぼつ出てみたい。クルー: スナイプ470の山田を筆頭に、一流レーサーぞろい。

1423 MAHANA S 6,400×6,100×2,000×1,500 青

木三男 葉山 (あぶずり) 艇名の由来: ボリネシア語の太陽。抱負: クルーズ艇として楽しみたい。

1424 EMANON III S 7,490×5,800×2,550×1,500

柿島亮一 横浜 艇名の由来: No Name をさかさより読む「名無しの権兵衛」抱負: 1/4トン・NORCレース等に出場。クルー: 山本堯, 野本豊, 関忠好。

1425 MOLCON III S 9,760×7,865×3,046×1,800

山本芳男 諸磯 艇名の由来: 昭和34年~36年にかけて研究した製品の名前がモルコンで、その製品を販売(製造)するため現在の会社を創った。現在ではその商品はほとんど製造しておらず、名前だけでもヨットにつけて残したいと思いMOLCONと命名する。抱負: 近年中にワントナーを建造。NORCへの要望: NORCのメンバーの支出でクルーザーを作りアドミラルカップスなどに挑戦。

1428 DEVL II S 7,49×6,10×2,36×1,52 番場

盛義 佐島 艇名の由来: 平均身長168cm, 平均体重81kgと肥満児の集まりなので。クルー: 学生時代のラガーを中心にした共同オーナー, 全員船長で「船山に登る」状態。

### 〔東海〕

1384 FELICIA II S 6,650×5,700×2,100×1,000

大谷武夫 大井港 (知多) 艇名の由来: ラテン語で純白の艇に似た麗しい女性の名。抱負: クルーシングの基礎を十分に吸収したい。クルー: 全員同期の卒業生で、現在各々開業, 勤務医, 大学助手等職場が違っている。

1385 PEKKE II S 5,850×5,200×2,000×1,120 齊

藤哲典 (共同オーナー) 艇名の由来: 現在活躍している船舶の名称は殆んど〇〇丸と称されている。我々はそれに反して丸の反対であるペケを名称とした。抱負: 都会では経験できない自然との接触をもとに、これからの社会生活を一層有意義に暮らしていきたい。クルー: 齊藤哲典…歯科医で (外見は全くそう見えず) ウィットに富んでおり好感のもてる人物。近頃結婚した様で愛妻家と



の噂高し。滝佳弘…一見鈍才風であるが、実はとても学問的にサエル男性であり、ヨットのことにはチトうるさい人物。趣味については仲々ユーモアにとんでいるものが多い。水野昌弘…人の良さそうな人物だが、中味は刃金が一本入った男性。最近彼女が実在したらしくヨットはちょっとお休みが多くなりがち。クルー第一のエンジニア。小池要…クルーで最もハンサムな若者。人の良いとはけた人物としてクルーでは年少のこともあって皆にかわいがられている。マージャンうまし。多少ズーズーしさがあるが、そこが又苦にならず可愛い。

1390 ナポレオン II S 7,620×6,100×2,520×1,300  
鈴木幹夫 衣浦 艇名の由来：英雄ナポレオンを尊敬している。酒とヨットが唯一の楽しみ。抱負：レースにかける。クルー：本多典弘、新美博之、石川武、大橋宏治、高須敏行、岩田光治。  
NORCへの要望：今回のフリート単位の評議員制には賛

成。全国的にもっとヨットに対する一般の人人の理解の向上に努力して下さい。

### [内海]

1408 かぜのこ S 7,490×6,090×2,360×1,520 村尾隆一 須磨 艇名の由来：小型帆船はどんなに頑張っても風の力には勝てない。風に抵抗するより、風の子供になったつもりで風に逆らわずに安全に帆走を楽しみたいと思って「かぜのこ」とした。抱負：内海支部主催のレースにできるだけ参加したい。世間のヨットに対する理解をもっと深めるため努力したい。クルー：現在までシングルハンドのクルージングに専念していたのでクルーは山川紘二氏一人のみ。山川氏とのコンビは非常によく、今のところ他にクルーは必要なし。

1416 キーン タカコ S 7,465×6,317×2,521×1,240  
大島正光 高松 艇名の由来：妻の名前より。抱負：内海のクルージング。

## ヨットの登録について

### NORC本部総務委員会

過日ご送付いたしました運輸省の通達船査第378号の3・員職第582号の3によるプレジャーボートに対する安全指導については、既に遺憾なきを期しておられることと存じますが、諸規定の基礎になる自己の所有艇の「総トン数が5トン未満であるか否か」についての判断に迷っておられる方もあると思いますので、運輸省船舶局に出頭し、担当官に概ねの目安の決め方につき質問したところ、次の簡単な算式によりトン数を算出し、その結果が(甲板上のキャビンの容積を0.5トン以内とみて)4.5トン以内に出たら、5トン未満とみなして差支えなからうとのことであります。

#### 1. 寸法の単位がフィートの場合

長さ(L)×幅(B)×深さ(D)×

0.55(木船)0.62(その他)÷100=トン数

#### 2. 寸法の単位がメートルの場合

長さ(L)×幅(B)×深さ(D)×

0.55(木船)0.62(その他)×0.353=トン数

(注)(イ)長さはステムの先端より、ラダーポスト又はその延長線が、上甲板に接する部分の後端まで(略図参照)

(ロ)幅は最大の部分を測る

(ハ)深さは上甲板から竜骨の上端まで

(ニ)トン数を少なくするため有利と思われる測り方は謹むこと

以上により算出したトン数が4.5トン以上に出た場合は、登録を必要とする艇として申請が必要になります。

なお、船体の所定の場所に登録番号や平仮名の艇名を記入するよう指示されている向きもあるやに聞いておりますが、これは都道府県等の条例によるもので、府県ごとに取扱いが異なるため、運輸省において一率に定めることは不可能であるとのことであります。

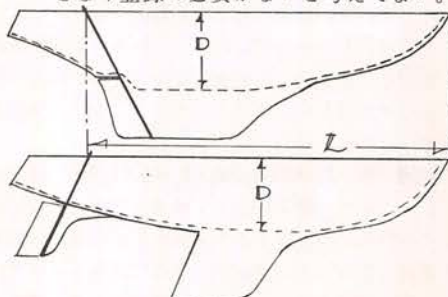
(例) プルウォーター24を例にとって計算してみると

L=22'55 B=7'55 D=3'30

船体が木船でないので

$22.55 \times 7.55 \times 3.30 \times 0.62 \div 100 = 3.48$ トン

となり登録の必要がないと考えてよい。



## 健闘 8 位！HTC世界選手権

先日、デンマークのハンデシュタットで行われたハーフトン世界選手権レースで、わがサラブレッドチーム(庄崎義雄スキッパー・大谷たかを・石田和雄・戸叶幹男)はスカンビをチャーター、善戦健闘、全55艇中、総合8位の素晴らしい成績をあげ、万丈の気を吐い

た。レースはR.B.レース1回、オリンピックコース2回、110マイルと250マイルのオフショア2回で、①6位、②17位、③23位、④3位、⑤17位であった。

同レースをつぶさに観戦した油壺ボートサービスの福留清彦会員の話しによれば、「中風の混戦で、技術の差が成績になった様です。」とのこと。各艇セールはまちまちで、エルブのベスは27位、SS系も振わなかった様だ。総合1位はフランスのアンペンサブル、2位はスエーデンのコンフォートII、3位はノルウェーのシラーナIII。



ボイソトビ - 犬	
夕 ヲ ス	サ ソ ノ サ ソ ノ サ
3/4~4/1	6/3~7/15
I /	① THETIS
(I~III)	
① 旭 ② 都鳥 ③ FUJI	① SUNBIRD II ② WADATSUMI ③ FOLLOW THE SUN
II	
III	
① RODEM III ② DABOHAZE III ③ さら文	① DABOHAZE III ② CRAZY BLUE ③ HAYATE
IV	
① HIGHSPIR -IT ② 陽 焰 ③ RED SHARK REDSHARK	① HIGH SPIRIT ② RED SHARK ③ 陸 客 丸
V	
(VI~VII)	① MISTRAL
① YELLOW- BIRD ② 笑い鳥一家 ③ 雷 電	
VII	
① TRACER ② MOJMOJA ③ YELLOW -BIRD	
VIII	



## 海洋博協賛レース のため現地視察へ

NORCのシニアメンバーである、小沢信三郎(稲龍)・清水栄太郎(月光 III)・小池真(海洋博協会)の3会員は、それぞれ日本ヨット協会・NORC・沖縄海洋博協会の代表として、1975年度の沖縄海洋博協賛レース開催の事前調査のため、8月27日～30日の4日間、現地に出張、那覇市周辺と本部会場その周辺の海上を視察した。

調査項目は、泊地・宿泊設備・陸上設備・会場海面など多方面に亘って第一次的な調査・視察が行なわれ、委員会に詳細な結果がレポートされた。今後ともこれらの調査・検討をつぎつぎに進め、これからの沖縄海洋博協会自体の準備・設営が進行すると共に、急速な具体化が期待されています。

## シーボニアフリートの夏祭り

8月25日、昼間の激しい雨もからりと晴れ上ったシーボニアのプールサイド、平野喜美夫フリートキャプテン・平松栄一委員や大儀見薫専務理事を始め、久しぶりの竹下さんや福吉ジュイさん・滝RENA氏に小黒先生や窪山先生などの主力メンバーが勢揃い、御家族や美男美女あまた百数十名、リズム&ブルースのバンドも湧えての華やかな交歓、宴なかば炭坑節などの飛入りも興趣をそえる。フィナーレ、全員が輪をつくって“螢の光”を歌い、解散したのが印象的であった。

## 諸磯フリートのバーベキュー

優雅な貴公子ムードのシーボニアフリートと対象的に、若さと情熱を誇る諸磯フリート恒例のバーベキュー親睦大会は8月26日、日曜日の昼下り。馬渡健治フリートキャプテン・倉持和夫世話役を始め主力メンバーや家族の方々70名余り、ゴーゴーバンドのリズムに乗っての盛大な食欲と飲みっぷり、歌い踊る賑やかな嬌声は、隣の油壺フリートを悩ますこと5時間に及んだ。

## 本部・関東支部レース前半表彰式 関東支部夏祭り

9月15日、シーボニアのプールサイドにて73前半の本部・関東支部レースの表彰式(成績はP23参照)、を兼ね、関東支部夏祭りが盛大に行われた。

HTC世界選手権8位の庄崎スキッパーのあいさつもあり、各会員前半レースの話題に花をさかせ、ゴーやら、スキッパーの水葬やらと盛会であった。

## 関谷前会長顕彰金・中間報告

3万円也

井上正春(内)・小網代フリート・角田博

1万円也

丹羽由昌・広島フリート有志・高村信

6千円也

京都ヨットクラブ

5千円也

延滋男・山崎達光・高村孝・大谷正彦・井上直彦・白崎謙太郎・周東英卿

4千円也

川崎勇・徳永忠志

3千円也

岡村欣一良・猪上忠彦・大橋郁夫・山本弘・田中敬一・岩田行史・小西汎・反田邦治・飯島征四郎・奥村義晴・松野亘秀・三木貞守

2千円也

森村譲二・山崎至朗・伊橋照美・河瀬直春・副島恒男・鈴木利久・長谷川喜一郎・鈴木輝男・竹下明・福吉信雄・窪山善右衛門・小林和夫

1千円也

田村勝吾・根本紀一・野本謙作・加藤鶴喜知・川島正通・栗田栄一郎・外山賢三・並川隆秋・鈴木英也・山本政喜・藤井浩・木村晃・田辺英蔵・勝木一郎・森田和男・ライアン・パークレイ・佐々木史郎・深川知明・秋山欣徳・今関康志・三船清治・横井英明・岩田裕士・浜本正驥・重本弘定・原田国幸・名当英臣

◎9月10日現在小計 ￥256,000

◎〆切期日：9月30日ですので、奮って御参加下さい。

## 事務局だより

① 会費未納者には別に、48年度年会費払い込みについて葉書をお送りしました。至急払い込みをお願いいたします。

② 住所・勤務先の変更は出来るだけ早く、事務局まで御通知下さい。各種郵便物を発送するたびに、移転先不明などでの返送が多く、困惑いたしております。

③ NORCのクラブ旗、エンサイン旗、ネクタイなどの納入が円滑を欠いておりまして何かと御迷惑をおかけしました。先に新艇登録・新入会員の申込みの際、それらを受領なさらなかった方は、御手数ながら事務局まで御一報下さい。

④ IYRUレースルール(300円)、NORCログブック(500円)、相模湾DFチャート(300円)、沖縄レース記念ヤンバル船ネクタイ(15,000円)、NORCマーク入グラス2箇組(500円)、同チーカップ2箇組(800円)等在庫がありますので、御利用下さい。